

授業科目名：日本史概説	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 内山 一幸
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会、高等学校地理歴史）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 日本史・外国史 日本史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業では日本史の教科書と学術研究との距離がどのようなものであるかを講義します。教科書がどのような学説を背景として執筆されているかを理解し、教科書の行間を説明できるようになることを目標とします。あわせて社会科の教員として必要な日本史に関する知識を身につけてもらいます。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では日本史の教科書で扱われる古代から近代までの事象について、近年の研究成果にも目を配りつつ中長期的な展望のもとに解説をします。特に日本と周辺地域との関係に注目します。また、教科書の叙述内容がどのように変遷しているかもあわせて説明します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：日本史の教科書と研究の関係</p> <p>第2回：律令国家の形成</p> <p>第3回：平安王朝への道</p> <p>第4回：中世の始まりと院政</p> <p>第5回：鎌倉幕府と武士の成長</p> <p>第6回：地域社会の形成と応仁の乱</p> <p>第7回：織豊政権と天下統一</p> <p>第8回：近世の社会化</p> <p>第9回：蝦夷地と北方世界</p> <p>第10回：琉球と環シナ海世界</p> <p>第11回：対馬から見た日朝関係</p> <p>第12回：明治維新</p> <p>第13回：明治憲法体制の確立</p> <p>第14回：国際秩序の再編と日清戦争</p> <p>第15回：日露戦争と韓国併合</p>			

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

谷川穰ほか編『論点日本史学』（ミネルヴァ書房、2021年）

学生に対する評価

毎回、講義に関するミニテストを行い、その総点で成績評価を行う。

授業科目名：日本経済史	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高木久史
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会、高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 日本史・外国史 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 日本経済の歴史的変遷・動態ならびに現代社会の成り立ちを考える。その認識を通して、国際社会で主体的に活動し、公共的な事柄に参加する資質や能力を習得する。			
授業の概要 7世紀から21世紀までの日本の経済のありようを通史的に概観する。			
授業計画 第1回：経済の歴史を知ることの意義 第2回：古代・中世日本の経済概観：経済社会化の萌芽 第3回：近世の成立と全国市場の展開1：大開墾の時代/海運の整備と全国市場の成立 第4回：近世の成立と全国市場の展開2：「鎖国」と貿易の展開/元禄から享保へ 第5回：田沼時代から松方財政まで1：政策の推移 第6回：田沼時代から松方財政まで2：産業の展開/対外関係の推移 第7回：松方デフレから第1次世界大戦まで1：近代経済成長の開始/諸産業の発展と構造変化 第8回：松方デフレから第1次世界大戦まで2：「小さな政府」から「大きな政府」へ/日本とアジア 第9回：第1次世界大戦から昭和恐慌期まで1：第1次世界大戦と日本経済/経済政策と金解禁問題 第10回：第1次世界大戦から昭和恐慌期まで2：「高橋財政」と1930年代の日本経済 第11回：戦時経済から民主化・復興へ1：戦時統制経済の形成と崩壊/敗戦と戦後改革 第12回：戦時経済から民主化・復興へ2：インフレーション下の戦後復興と特需景気 第13回：高度成長から平成不況まで1：高度成長のメカニズム/高度経済成長の終焉と構造調整 第14回：高度成長から平成不況まで2：バブル経済とその崩壊 第15回：現代の経済を歴史から考える			
テキスト とくに指定しない			
参考書・参考資料等 浜野潔ほか著『日本経済史1600-2015：歴史に読む現代』慶應義塾大学出版会, 2017			
学生に対する評価 平常点：毎回の授業で課題を提示し回答を求める			

授業科目名： 日本経済史特論	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高木久史
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会、高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 日本史・外国史 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 日本経済の歴史的変遷・動態につき貨幣を軸に考える。その認識を通して国際社会で主体的に活動し公共的な事柄に参加する資質や能力を習得する。			
授業の概要 7世紀から21世紀にかけての日本の経済のありようを、貨幣・金融を中心に概観する。			
<p>授業計画</p> <p>第1回：貨幣とは何か？：用語定義と時代区分</p> <p>第2回：政府債としての皇朝銭と政府事業：7世紀～10世紀</p> <p>第3回：民間が銭を輸入し、模造する：11世紀～14世紀</p> <p>第4回：勘合貿易・密貿易による銭輸入と銭模造の地域的拡大：15世紀</p> <p>第5回：銭国産の拡大と米・金・銀の台頭：16世紀前半(1)</p> <p>第6回：石見銀山の世界経済史的位罫：16世紀前半(2)</p> <p>第7回：織田信長の貨幣政策は革新的か？：16世紀後半</p> <p>第8回：三貨制度の成立と紙幣の登場：17世紀前半</p> <p>第9回：江戸幕府の財政再建と貨幣政策：17世紀後半～18世紀前半</p> <p>第10回：金本位制への接近と紙幣・小額貨幣の隆盛：18世紀後半～19世紀前半</p> <p>第11回：開港と維新政府の貨幣政策：19世紀第3四半期</p> <p>第12回：中央銀行制度の導入と金本位制：19世紀第4四半期</p> <p>第13回：金輸出停止・金解禁から管理通貨制度へ：20世紀前半</p> <p>第14回：ブレトンウッズ体制から変動相場制へ：20世紀後半</p> <p>第15回：現在・未来の貨幣を考える：21世紀</p>			
テキスト とくに指定しない			
参考書・参考資料等 高木久史『通貨の日本史』中央公論新社、2016			
学生に対する評価 平常点：毎回の授業で課題を提示し回答を求める			

授業科目名： 東洋史概説	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 細見 和弘
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 日本史・外国史 外国史		
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ：中国を中心とする東アジアの近世・近代史 到達目標：東洋史に関する個々の歴史事項について精確な知識を習得するとともに、アジア地域に関するマクロ的な歴史像を描くことができる。			
授業の概要 （１）中国がアジア・アフリカで構築した国際秩序とその変容の歴史、（２）16～18世紀の東アジアにおける伝統社会の形成史、（３）アヘン戦争につながる中国と西洋の間の国際貿易関係をめぐる諸問題、（４）アヘン戦争後の中国近代化過程について検討する。			
授業計画 第1回：東アジア世界と冊封体制 第2回：明朝建国と朝貢体制の成立 第3回：鄭和の南海大遠征 第4回：アジアの中の琉球王国 第5回：ポルトガルのアジア進出と胡椒・香料貿易 第6回：16世紀中国の海賊 第7回：明清交代と台湾鄭氏政権の興亡 第8回：イギリス東インド会社のアジア進出 第9回：中英茶貿易 第10回：インド・アヘン貿易の確立過程 第11回：清朝政府のアヘン政策 第12回：アヘン戦争と南京条約 第13回：中国近代化思想の芽生え 第14回：洋務運動期における対日政策 第15回：日清戦争への道 定期試験			
テキスト			

テキストは指定しない。

参考書・参考資料等

- ・トーマス・L・ケネディ著・細見和弘訳『中国軍事工業の近代化－太平天国の乱から日清戦争まで－』（昭和堂、2013年）。
- ・富谷至・森田憲司編『中国史（下）』（昭和堂、2016年）。

学生に対する評価

定期試験（70%）、ミニ・レポートなどの平常点（30%）。

授業科目名：西洋史概説	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山本 正
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・ 日本史・外国史 ・ 外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業テーマ：ヨーロッパ世界の歴史的展開。</p> <p>到達目標：中学校社会科ならびに高等学校地理歴史科の教員免許取得に必要な程度に、歴史的世界としてのヨーロッパ世界の成立と展開について説明できるようなる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>ヨーロッパ世界をひとつの歴史的世界として捉え、その成立と展開を見ていく。そのさい、他の歴史的世界との相互交流あるいは衝突がヨーロッパ世界の展開に与えた影響にも留意していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の概要と進め方</p> <p>第2回：ヨーロッパと古代</p> <p>第3回：古代地中海世界の変遷</p> <p>第4回：古代地中海世界の滅亡とヨーロッパ世界の成立</p> <p>第5回：中世初期のビザンツ世界、イスラム世界、ヨーロッパ世界</p> <p>第6回：中世盛期のヨーロッパ世界</p> <p>第7回：中世盛期のヨーロッパ世界とビザンツ・イスラム世界との関わり</p> <p>第8回：中世末期のヨーロッパ世界と近世ヨーロッパ世界の海外進出</p> <p>第9回：「新世界」の「発見」・征服—なぜヨーロッパ人は中南米先住民を苛酷に扱えたのか—</p> <p>第10回：ヨーロッパ人の生活革命</p> <p>第11回：産業革命とヨーロッパ世界のグローバル化</p> <p>第12回：パクス・ブリタニカ</p> <p>第13回：オリエンタリズム</p> <p>第14回：20世紀の世界大戦と平和構築の努力</p> <p>第15回：冷戦（米ソ対立）</p> <p>定期試験</p>			
テキスト			

「世界の歴史」編集委員会編 『新 もういちど読む山川世界史』 (山川出版社、2017年)

参考書・参考資料等

授業中に適宜指示する。

学生に対する評価

授業内で行う小テスト:40% (高校世界史の内容の理解度を確認する。)

学期末試験:60% (到達目標に記載したことがらの達成度を測る試験を行う。)

授業科目名： 経済史基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高木久史、山本正、浅野敬一、 吉田建一郎、上宮智之
			担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 日本史・外国史 外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業テーマ：経済学を学ぶうえで必要な経済史・経済思想の基礎的知識や視点</p> <p>到達目標：歴史的な観点から経済学について説明できる。</p> <p>古今東西の歴史を、経済史・経済思想の観点から説明することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業は5名の教員が担当する。経済学を学ぶために必要な柱の1つは過去への関心である。経済現象を歴史的に把握・解明する分野を「経済史」というが、この授業ではその基礎的な知識を学ぶ。また、経済現象の把握・解明には「経済社会とは何か」という問題も考えねばならない。このような問題について考えた経済学者たちの考えを歴史的に究明する「経済思想史」の基礎も学ぶ。これらを通じて、1年生がこれから経済学を学ぶうえで備えておくことが望ましい知識や視点の習得、つまり歴史的な観点から経済学について考える基礎力を身につけることを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：経済史とは何か／貨幣システム（担当：高木久史）</p> <p>第2回：地域分業と生態系（担当：高木久史）</p> <p>第3回：気候変動（担当：高木久史）</p> <p>第4回：食材から見たグローバル経済史（1）砂糖（担当：山本正）</p> <p>第5回：食材から見たグローバル経済史（2）茶（担当：山本正）</p> <p>第6回：食材から見たグローバル経済史（3）ジャガイモ（担当：山本正）</p> <p>第7回：資本主義の確立・拡大・修正（1）産業革命（担当：浅野敬一）</p> <p>第8回：資本主義の確立・拡大・修正（2）資本主義の拡大と新たな問題（担当：浅野敬一）</p> <p>第9回：資本主義の確立・拡大・修正（3）大恐慌とニューディール（担当：浅野敬一）</p> <p>第10回：東アジア経済史の基礎（1）東アジアの共通性と多様性（担当：吉田建一郎）</p> <p>第11回：東アジア経済史の基礎（2）欧米と東アジア（担当：吉田建一郎）</p> <p>第12回：東アジア経済史の基礎（3）政治の変動と経済（担当：吉田建一郎）</p> <p>第13回：経済思想入門（1）自由貿易と保護貿易（担当：上宮智之）</p>			

第14回：経済思想入門(2) 社会主義思想(担当：上宮智之)

第15回：経済思想入門(3) 政府の政策(担当：上宮智之)

定期試験は実施しない。

テキスト

授業は、各教員が用意する教材に基づいて進められる。

参考書・参考資料等

中西聡『経済社会の歴史—生活からの経済史入門』(名古屋大学出版会、2017年)

堀和生・木越義則『東アジア経済史』(日本評論社、2020年)

平賀緑『食べものから学ぶ世界史—人も自然も壊さない経済とは?—』(岩波書店、2021年)

その他の文献については各教員が授業内で適宜紹介する。

学生に対する評価

5名の担当教員のそれぞれが授業の中で出す課題(100%)

授業科目名： 西洋経済史	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 浅野敬一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・ 日本史・外国史 ・ 外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】</p> <p>本授業は、中世から第二次世界大戦までの時期を対象に、ヨーロッパ（主に西ヨーロッパ）とアメリカ合衆国の経済史を概観する。西ヨーロッパで生まれた資本主義経済は、世界を一つに結びつけ、われわれもそのなかで生きている。現在のグローバル経済が形成された過程を学ぶことで、現代の経済や社会が直面する問題を解決する手掛かりを考察していく。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 西ヨーロッパとアメリカ合衆国を主な対象として、経済史の基本的な流れが説明できる。 2. 1.のうち重要な事項について内容を説明できる。 3. 現在の経済的な事象や政策の背景を歴史的に考察し説明できる。 <p>上記の到達目標のうち、1. 2. は経済学部ディプロマ・ポリシーのDP2（知識・技能）に、3. はDP3（思考力・課題解決力）にそれぞれ関連する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>①概要の説明【講義】→②各自による小テスト（または小レポート）および参考資料などの読解・調査【自修】→③小テスト等の解説、論点の整理・深耕と質疑【次回講義】のフローが基本となる。</p> <p>小テスト（または小レポート）は、e-learning(Web Class)を使用する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンスとヨーロッパの古代・中世（経済史を理解する前提としてのヨーロッパ古代史・中世史の概要）</p> <p>第2回：中世の農業（封建社会の展開と農業の発展）</p> <p>第3回：中世の都市と商業（都市と商業の発展、中世社会の変化）</p> <p>第4回：大航海時代（重商主義政策とヨーロッパの海外進出）</p> <p>第5回：産業革命①（産業革命の概況と労働節約的技術の発展）</p> <p>第6回：産業革命②（社会の変化、グローバル経済における産業革命）</p> <p>第7回：産業革命③（産業革命とヨーロッパ経済の成長に関する諸見解）</p>			

<p>第8回：アメリカ経済の誕生（アメリカ経済の特異性、独立による変化と継続）</p> <p>第9回：アメリカ経済の発展と南北戦争（アメリカ経済の工業化、南北戦争の経済的意義）</p> <p>第10回：ビッグ・ビジネスの登場（鉄道の延伸と組織の変化、鉄鋼業の技術革新と規模の拡大）</p> <p>第11回：帝国主義の時代（ヨーロッパ諸国の海外進出、イギリスの「自由貿易帝国主義」）</p> <p>第12回：テクノロジーの発展（造船、海運、感染症対策）</p> <p>第13回：第一次世界大戦による変化（イギリスの覇権の衰退、金本位制の変容）</p> <p>第14回：大恐慌とニューディール（通貨制度と政策による危機の拡大、ニューディールによる変化）</p> <p>第15回：第二次世界大戦後への教訓（金本位制とブロック経済の問題点）</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>特定のテキストは使用しない。レジュメと講義スライドをOne Drive経由で配布する。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>河崎信樹ほか『一般経済史』ミネルヴァ書房、2018年。</p> <p>参考資料はOne Drive経由で配布する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>毎回の小テスト（または小レポート）：30%</p> <p>定期試験（論述式、一部選択式）：70%</p>

授業科目名：西洋経済史特論	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 浅野敬一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・ 日本史・外国史 ・ 外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】</p> <p>本授業は、日本との関係を含めて、アメリカ経済史の展開を企業のあり方とその影響に着目しながら考察する。アメリカ合衆国とその経済は、世界に、もちろん日本にも大きな影響を与える存在である。また、現代の経済において、企業は、生産面のみならず、社会や生活のさまざまな局面で重要な役割を担っている。アメリカ経済史と企業を入りに、現代の経済や社会が直面する問題を解決する手掛かりを考察していく。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカ経済史の基本的な事項が説明できる。 2. 第二次世界大戦後の国際経済の変化のあらまし、とくにアメリカと日本の経済関係の変化について説明できる。 3. アメリカ経済史における大企業、中小企業、ベンチャーそれぞれの役割を考察し説明できる。 4. 企業の変化が社会や人々の働き方や生活に与えた影響を考察し説明できる。 <p>上記の到達目標のうち、1. 2. は経済学部ディプロマ・ポリシーのDP2（知識・技能）に、3. 4. は同3（思考力・課題解決力）にそれぞれ関連する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>①概要の説明【講義】→②各自による小テスト（または小レポート）および参考資料などの読解・調査【自修】→③小テスト等の解説、論点の整理・深耕と質疑【次回講義】のフローが基本となる。</p> <p>小テスト（または小レポート）は、e-learning(Web Class)を使用する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンスとアメリカ経済の成立（植民地時代から南北戦争までのアメリカ経済）</p> <p>第2回：大企業の登場①（鉄鋼、石油等における大企業の形成と反トラスト法の成立）</p> <p>第3回：大企業の登場②（自動車を例にした大量生産の拡大とその影響）</p> <p>第4回：農業の競争力（穀物生産の拡大と農業政策の変化）</p>			

- 第5回：ニューディール（社会保障等を含む経済政策の変化）
- 第6回：第二次世界大戦のインパクト（科学技術と軍事力の結びつき、その後の軍産複合体の形成）
- 第7回：繁栄する経済と企業（繁栄をけん引する大企業と停滞する中小企業）
- 第8回：戦後国際経済体制の形成（IMF=GATT体制の意義とその限界・矛盾、日本との経済関係）
- 第9回：戦後国際経済体制の再編（アメリカ経済の動揺とブレトンウッズ体制の崩壊）
- 第10回：オールド・エコノミーの凋落（日本経済の成長と日米製造業の逆転）
- 第11回：イノベーションの必要性（イノベーションの概念、新たな産業の必要性）
- 第12回：アメリカ経済の転換（大企業のリストラクチャリングとハイテク・ベンチャーの登場）
- 第13回：グローバリゼーションとIT（企業のあり方と雇用に与えた影響、日米の再逆転）
- 第14回：経済政策の対立軸（1990年代以降の民主党と共和党の経済政策とその欠落点）
- 第15回：三重構造のアメリカ経済（アメリカ経済の成長と新たな格差）

定期試験

テキスト

坂出健ほか『入門 アメリカ経済 Q&A100』中央経済社、2019年。

講義スライドはOne Drive経由で配布する。

参考書・参考資料等

谷口明丈・須藤功編『現代アメリカ経済史—「問題大国」の出現』有斐閣、2017年。

参考資料はOne Drive経由で配布する。

学生に対する評価

毎回の小テスト（または小レポート）：30%

定期試験（論述式、一部選択式）：70%

授業科目名： 世界経済史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉田 建一郎
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 日本史・外国史 外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマ：大航海時代から今世紀初頭までの世界経済のあゆみ</p> <p>到達目標：世界経済史上の基礎的な用語について説明できる。</p> <p>世界経済史上の重要な複数の出来事を、互いに関連づけて説明できる。</p> <p>過去の人々によって形成されてきた世界の社会経済に関する知識を、現在、そして将来の社会生活に役立てることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>大航海時代から今世紀初頭までの世界経済のあゆみを、基礎的な歴史用語を軸に、政治や社会の動向にも目を配りながら紹介する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の概要と計画</p> <p>第2回：大航海時代</p> <p>第3回：「オランダの世紀」</p> <p>第4回：イギリスの産業革命</p> <p>第5回：パクス＝ブリタニカとアメリカ</p> <p>第6回：清朝統治下の中国</p> <p>第7回：インドの18・19世紀</p> <p>第8回：帝国主義の時代（1）—19世紀末～20世紀前期のアフリカ・中南米・東南アジア—</p> <p>第9回：帝国主義の時代（2）—19世紀末～20世紀前期の朝鮮半島・台湾—</p> <p>第10回：戦間期の世界（1）—第一次世界大戦後のアメリカとソ連の誕生—</p> <p>第11回：戦間期の世界（2）—世界恐慌の発生から第二次世界大戦の勃発まで—</p> <p>第12回：第二次世界大戦後の世界（1）—1940年代後半～1950年代の世界経済—</p> <p>第13回：第二次世界大戦後の世界（2）—1960年代～1970年代の世界経済—</p> <p>第14回：第二次世界大戦後の世界（3）—1980年代以降の世界経済—</p> <p>第15回：授業で扱った内容の確認と総括</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

プリントを用いる。講義日の2日前までに、プリントのPDFファイルをネット上にアップする。

参考書・参考資料等

杉山伸也『グローバル経済史入門』（岩波書店、2014年）

北川勝彦・北原聡・西村雄志・熊谷幸久・柏原宏紀『概説世界経済史』（昭和堂、2017年）

金井雄一・中西聡・福澤直樹編『世界経済の歴史—グローバル経済史入門—（第2版）』（名古屋大学出版会、2020年）

学生に対する評価

授業で言及した用語の意味や複数の史実の相互関係について理解度を問う定期試験（100%）

授業科目名： 現代経済史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉田 建一郎
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 日本史・外国史 外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマ：20世紀以降の世界と東アジアの経済のあゆみ</p> <p>到達目標：20世紀以降の世界経済の変容について、基礎的な用語を使って説明できる。</p> <p>東アジアの現代史上の複数の出来事を互いに関連づけて説明できる。</p> <p>過去の人々によって形成されてきた世界の社会経済に関する知識を、現在、そして将来の社会生活に役立てることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>20世紀以降の世界と東アジア（特に中国、台湾、韓国）の経済のあゆみについて、政治や社会の動向にも目を配りながら紹介する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の概要と計画</p> <p>第2回：戦間期の世界経済（1）—第一次世界大戦から世界恐慌まで—</p> <p>第3回：戦間期の世界経済（2）—世界恐慌から第二次世界大戦の勃発まで—</p> <p>第4回：第二次世界大戦後の世界経済</p> <p>第5回：植民地期の朝鮮半島の経済</p> <p>第6回：戦後韓国の経済発展</p> <p>第7回：植民地期の台湾の経済</p> <p>第8回：戦後台湾の経済発展</p> <p>第9回：中華人民共和国のあゆみ（1）—建国（1949年）から1950年代—</p> <p>第10回：中華人民共和国のあゆみ（2）—大躍進運動と文化大革命—</p> <p>第11回：中華人民共和国のあゆみ（3）—文化大革命の終わりと改革開放の始まり—</p> <p>第12回：中華人民共和国のあゆみ（4）—1980年代以降の動向—</p> <p>第13回：華僑と中国の現代史（1）—華僑と中国の指導者、華僑送金—</p> <p>第14回：華僑と中国の現代史（2）—華僑系企業の活動—</p> <p>第15回：授業で扱った内容の確認と総括</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

プリントを用いる。講義日の2日前までに、プリントのPDFファイルをネット上にアップする。

参考書・参考資料等

中村哲『近代東アジア史像の再構成』（桜井書店、2000年）

久保亨・土田哲夫・井上久士・中村元哉『現代中国の歴史—兩岸三地100年のあゆみ—（第2版）』（東京大学出版会、2019年）

金井雄一・中西聡・福澤直樹編『世界経済の歴史—グローバル経済史入門—（第2版）』（名古屋大学出版会、2020年）

学生に対する評価

授業で言及した用語の意味や複数の史実の相互関係について理解度を問う定期試験（100%）

授業科目名：アジア経済史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：蕭 文嫻
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・ 日本史・外国史 ・ 外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では、東アジアの日本と中国に限定し、できるだけ長いタイム・スパンで貨幣システムの歴史過程を見てみたいと考えている。経済史は総合的な学問である。現代と異なる時代の日本と中国の歴史発展過程を勉強することにより、経済におけるさまざまな仕組みのあり方を理解し、応用力が付き、長期的な変動についての見通しを得る能力を身につけることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>現代の世界経済は金融問題によって大きく揺さぶられている。2008年のリーマン・ショック以降の世界金融不安により、世界経済の成長が大きく停滞した。その対策として、アメリカは金融緩和を実施した。近年日本で打ち出されたアベノミクスもアメリカに追随して金融緩和政策を推進しようとする。こうした一連の事態は世界金融システムと世界経済の密接な関係を示し、一国の通貨運営の難しさを示している。</p> <p>そもそも国民通貨はどのような役割を持ち、どのように創出されたのであろうか。実体経済が国際経済とつながっていると同時に、貨幣制度も国内だけでは完結せず、国際通貨制度と深く結びついている。アジア諸国の通貨が現在の制度に辿りつくまでにさまざまな段階を経過した。その変化の歴史過程を理解することによって、貨幣とはなにかを考えてみたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：講義概要</p> <p>第2回：前近代東アジアの社会経済構造</p> <p>第3回：金銀銅貨—江戸日本の三貨制度</p> <p>第4回：近世東アジアの貿易と財政金融</p> <p>第5回：近代東アジアの開国・開港と再編</p> <p>第6回：日本の金銀貨・信用貨幣—日本円の確立と日本銀行</p> <p>第7回：日本の産業革命</p> <p>第8回：日本の金本位制移行と国際金本位制</p> <p>第9回：日本帝国形成と財政金融政策</p> <p>第10回：近代中国の近代化政策</p>			

第11回：中国の人的移動と対外経済

第12回：近代中国の金融システムの変革(1)—中国の伝統的な金融システム

第13回：近代中国の金融システムの変革(2)—銀銅貨・信用貨幣の制度確立

第14回：近代中国の金融システムの変革(3)—近代金融機関の確立

第15回：講義内容の総括

定期試験

テキスト

岡本隆司『近代中国史』（ちくま新書）、2013年

堀和生・木越義則『東アジア経済史』、日本評論社、2020年

参考書・参考資料等

杉原薫『アジア間貿易の形成と構造』、ミネルヴァ書房、1996年

中村宗悦、井奥成彦、浜野潔等『日本経済史 1600-2015』、慶應義塾出版会、2017年。

学生に対する評価

小テスト:40%（講義の理解度に対する確認）

学期末試験:60%（到達目標への達成度に対する測定）

授業科目名：経済学史	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：上宮 智之
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・ 日本史・外国史 ・ 外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業テーマ：18～19世紀半ばまでの経済思想・経済学の展開</p> <p>到達目標：18～19世紀半ばまでの経済学の歴史的展開，および経済学の基礎用語の意味やその由来を解説できる。数値例やグラフを用いてさまざまな学説を論理的に解説でき，またそれらの学生に基づいて経済現象・社会現象を分析・説明できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>主に18世紀初頭から19世紀半ばまでの，いわゆる「古典派経済学」の考えを中心にみていく。より具体的には，各時代に活躍した経済学者たち（重商主義，重農主義，スミス，マルサス，リカードウ，J. S. ミル，マルクスら）が，経済学をどのような学問と考え，また，それぞれの著作においてどのような考えを提示したのかについて概説する。同時に，現代の経済学や社会問題などとも関連づけながら，経済学という学問の多様性，その意義や限界についても考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：科学および経済学の分類，経済学史の位置づけ</p> <p>第2回：スミス以前の経済思想：重商主義</p> <p>第3回：スミス以前の経済思想：重農主義</p> <p>第4回：スミスと『国富論』（理論編1：分業論ほか）</p> <p>第5回：スミスと『国富論』（理論編2：資本蓄積論）</p> <p>第6回：スミスと『国富論』（歴史編）</p> <p>第7回：スミスと『国富論』（政策編）</p> <p>第8回：マルサスの人口法則</p> <p>第9回：マルサスとリカードウ：穀物法論争</p> <p>第10回：リカードウの分配論1（地代論）</p> <p>第11回：リカードウの分配論2（賃金論・利潤論）</p> <p>第12回：リカードウの国際貿易論</p> <p>第13回：古典派経済学の反駁者たち（リスト，オウエン，サン＝シモン，フーリエ）</p> <p>第14回：古典派経済学から限界革命へ</p>			

第15回：マルクスの剰余価値説

定期試験

テキスト

教科書は定めず、毎回レジュメを配布する。

参考書・参考資料等

田中敏弘編著『経済学史』八千代出版（1997年）

江頭進『はじめての人のための経済学史』新世社（2015年）

小峯敦編『福祉の経済思想家たち〔増補改訂版〕』ナカニシヤ出版（2010年）

井上義朗『コア・テキスト経済学史』新世社（2004年）

喜多見洋・水田健 編著、『経済学史』，ミネルヴァ書房（2012年）

小峯敦『経済学史』ミネルヴァ書房（2021年）。

必要に応じて適宜、その他の文献も授業中に紹介する。

学生に対する評価

授業後e-learningに提示する小テスト:30%（毎回の講義の理解度を確認するテスト）

学期末試験:70%（到達目標に記載したことから達成度を測る試験を行う。）

授業科目名：経済学史 特論	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：上宮 智之
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・ 日本史・外国史 ・ 外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業テーマ：19世紀半ば～20世紀半ばまでの経済思想・経済学の展開</p> <p>到達目標：19世紀半ば～20世紀半ばまでの経済学の歴史的展開，および経済学の基礎用語の意味やその由来を解説できる。数値例やグラフを用いてさまざまな学説を論理的に解説でき，またそれらの学生に基づいて経済現象・社会現象を分析・説明できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>主に19世紀半ばから20世紀半ばまでの，いわゆる「近代経済学」以降の考えを中心にみていく。より具体的には，各時代に活躍した経済学者たち（ジェヴォンズ，メンガー，ワルラス，マーシャル，ケインズ，ハイエクら）が，経済学をどのような学問と考え，また，それぞれの著作においてどのような考えを提示したのかについて概説する。同時に，現代の経済学や社会問題などとも関連づけながら，経済学という学問の多様性，その意義や限界についても考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：科学および経済学の分類，経済学史の位置づけ</p> <p>第2回：古典派経済学の特徴 1（古典派の系譜・価値論）</p> <p>第3回：古典派経済学の特徴 2（古典派の分配論）</p> <p>第4回：資源経済学の勃興：ジェヴォンズ『石炭問題』</p> <p>第5回：限界革命と近代経済学の成立 1：限界革命の特徴</p> <p>第6回：限界革命と近代経済学の成立 2：ジェヴォンズの経済学</p> <p>第7回：限界革命と近代経済学の成立 3：ワルラスの経済学</p> <p>第8回：限界革命と近代経済学の成立 4：メンガーの経済学</p> <p>第9回：マーシャルの経済学とケンブリッジ学派の成立1（マーシャル経済学の問題意識）</p> <p>第10回：マーシャルの経済学とケンブリッジ学派の成立2（マーシャルの期間概念ほか）</p> <p>第11回：エッジワースの経済学</p> <p>第12回：歴史学派と経済学方法論争</p> <p>第13回：ケインズ革命とハイエクの反駁1（ケインズ経済学の問題意識）</p>			

第14回：ケインズ革命とハイエクの反駁 2（ハイエクによるケインズ批判）

第15回：効用の個人間比較とロビンズ，そして現代

定期試験

テキスト

教科書は定めず，毎回レジュメを配布する。

参考書・参考資料等

井上義朗『コア・テキスト経済学史』新世社（2004年）

江頭進『はじめての人のための経済学史』新世社（2015年）

喜多見洋・水田健編著『経済学史』ミネルヴァ書房（2012年）

小峯敦編『福祉の経済思想家たち〔増補改訂版〕』ナカニシヤ出版（2010年）

田中敏弘編著『経済学史』八千代出版（1997年）

小峯敦『経済学史』ミネルヴァ書房（2021年）

橋本昭一・上宮正一郎『近代経済学の群像』有斐閣ブックス（1998年）

必要に応じて適宜、その他の文献も授業中に紹介する。

学生に対する評価

授業後e-learningに提示する小テスト:30%（毎回の講義の理解度を確認するテスト）

学期末試験:70%（到達目標に記載したことがらの達成度を測る試験を行う。）

授業科目名： 日中交流史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：閻立
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・ 日本史・外国史 ・ 外国史		
授業のテーマ及び到達目標 1840年のアヘン戦争から1894年の日清戦争までの日中交流史を学習する。日中相互イメージの認識に潜む「虚像と実像」を示唆する。			
授業の概要 1840年アヘン戦争から1894年日清戦争までの日中交流史を学習する。			
授業計画 第1回：アヘン戦争と日本 第2回：魏源の『海国図志』の日本への流入 第3回：黒船と中国人翻訳 第4回：羅森の『日本日記』から見た開国直前の日本 第5回：幕末における日本人の上海派遣 第6回：高杉晋作の『游清五録』 第7回：1840年代～1860年代の日中交流史のまとめ 第8回：1870年代清朝官僚の日本認識 第9回：日清修好条規の締結 第10回：駐清公使館と駐日公使館の開設 第11回：何如璋の『使東述略』と『使東雜詠』 第12回：張斯桂の『使東詩録』 第13回：黄遵憲の『日本雜事詩』 第14回：黄遵憲の『日本国志』 第15回：日清戦争までの日中交流史のまとめ 定期試験			
テキスト 毎回プリントを配布する。			
参考書・参考資料等 閻立『清末中国の対日政策と日本語認識——朝貢と条約のはざままで』東方書店、2009年			

学生に対する評価

授業態度:15%、中間レポート:35%、期末試験:50%、フィードバックは授業内で行う。

授業科目名： 日中交流史特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：閻立 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・日本史・外国史 ・外国史		
授業のテーマ及び到達目標 1894年日清戦争から1911年辛亥革命までの日中交流の歴史を学習する。日中相互イメージの認識に潜む「虚像と実像」を示唆する。			
授業の概要 1894年日清戦争から1911年辛亥革命までの日中交流の歴史を学習する。			
授業計画 第1回：1840年アヘン戦争から1894年日清戦争までの日中交流史の概説 第2回：日清戦争と東アジアの国際秩序の変容 第3回：日清戦争後の中国人の日本観 第4回：日露戦争後の日本人の中国観 第5回：日本留学の開始：13名の清国留学生の来日 第6回：戊戌変法と日本 第7回：中国人の明治観 第8回：前半のまとめ（日清戦争から戊戌変法まで） 第9回：義和団事件と日本 第10回：日露戦争と日本留学のブーム 第11回：魯迅の『藤野先生』 第12回：清末立憲派と日本 第13回：清末革命派と日本 第14回：孫文と日本 第15回：後半のまとめ（1900年～1911年まで）			
定期試験			
テキスト 毎回プリントを配布する。			
参考書・参考資料等 岡本隆司『日中関係史』PHP研究所、2015年			
学生に対する評価			

授業態度:15%、中間レポート:35%、期末試験:50%、フィードバックは授業内で行う。

授業科目名： 中国近現代史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：闊立
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・ 日本史・外国史 ・ 外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1911年辛亥革命～1949年中華人民共和国成立までの中国の歴史を学習する。中国近現代史に関する基本的な知識を身につけ、多角的な視点で考える力を養うことが期待される。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>1911年の辛亥革命から1949年の新中国の成立までの中国の歴史を学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：辛亥革命の国際背景と国内の「排満」運動</p> <p>第2回：辛亥革命の過程と意義</p> <p>第3回：第二次革命・第三次革命</p> <p>第4回：第一次世界大戦と日本の21か条要求</p> <p>第5回：新文化運動</p> <p>第6回：五四運動</p> <p>第7回：前半のまとめ（1911年～1919年）</p> <p>第8回：南京国民政府の成立</p> <p>第9回：南京国民政府の内政と外交</p> <p>第10回：満州事変と「満洲国」</p> <p>第11回：西安事件と張学良</p> <p>第12回：国民党の抗日と共産党の抗日</p> <p>第13回：日中戦争と民衆生活</p> <p>第14回：国共内戦と国民党</p> <p>第15回：国共内戦と共産党</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>毎回プリントを配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『新・図説中国近現代史改定版：日中新時代の見取図』田中仁など著、法律文化社、2020年</p>			

学生に対する評価

授業態度:15%、中間レポート:35%、期末試験:50%、フィードバックは授業内で行う。

授業科目名： 中国近現代史特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：闊立
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・日本史・外国史 ・外国史		
授業のテーマ及び到達目標 1949年中華人民共和国成立～2001年中国のWTO加盟までの歴史を学習する。中国近現代史に関する基本的な知識を身に付け、多角的な視点で考える力を養うことが期待される。			
授業の概要 1949年の新中国成立から2001年の中国WTO加盟までの歴史を学習する。			
授業計画 第1回：1911年～1949年までの歴史の概要 第2回：中華人民共和国の成立 第3回：朝鮮戦争と中ソ関係 第4回：冷戦体制下の社会主義選択 第5回：大躍進の失敗 第6回：AA外交（アジア・アフリカ）路線 第7回：前半のまとめ（1949年～1958年） 第8回：中ソ関係の破綻 第9回：文化大革命 第10回：毛沢東思想の分析 第11回：鄧小平時代（1）1980年代の改革 第12回：鄧小平時代（2）1990年代の改革 第13回：WTOの加盟 第14回：21世紀の中国国内諸問題 第15回：21世紀の中国と世界 定期試験			
テキスト 毎回プリントを配布する。			
参考書・参考資料等 『新・図説中国近現代史改定版：日中新時代の見取図』田中仁など著、法律文化社、2020年			

学生に対する評価

授業態度:15%、中間レポート:35%、期末試験:50%、フィードバックは授業内で行う。

授業科目名： 人文地理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：長谷川達也 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 本講義では、人文地理学の主要な研究対象である都市を題材に人文地理学の基本的理論をまなび、都市とその周辺の諸現象・課題を解説します。また人文地理学の見方と主要なテーマを学習し、人文現象に関する地理学的思考力を養う。			
授業の概要 本講義では、人文地理学の見方と主要なテーマを学習する。人文地理学は、地理学の中でも人間と人文現象を扱う分野である。人口・産業・都市・観光など、人間の営みに関わる複雑多様な事象を、事象が成り立つ空間や場所、環境との関係から考える。私たちは、どこかに生まれ育って、どこかに進学・就業し、どこかに暮らしながら、買い物や観光をする。本講義では「地域」というレンズを通して、その「なぜ・どのように」を地理学的に考えていく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション・人文地理学とは：人文地理学の歴史と現状、教育における人文地理学 第2回：都市とはなにか？都市を定義する：都市の基準とは？農村との違いはなにか？ 第3回：都市の分類：成立、規模、機能などから都市を分類する 第4回：都市化と都市圏：都市化を促す要因はなにか？世界と日本の大都市圏を比較する 第5回：都市の内部構造：都市内部の地域分化とその要因 第6回：クリスタラーの中心地理論：都市の立地法則をまなぶ 第7回：ウェーバーの工業立地論と実際の工業立地：その理論と実際の工業立地 第8回：商業立地の理論と実際（1）：百貨店の立地から商業の最適立地地点を知る 第9回：商業立地の理論と実際（2）：コンビニの立地と未来像 第10回：都市と観光（1）観光都市の発展：巡礼、温泉、リゾート都市の起源と発展 第11回：都市と観光（2）アーバンツーリズム：都市に埋もれていた観光資源を発掘する 第12回：世界と日本の都市問題：都市の荒廃とその原因、世界の都市再開発 第13回：都市と盛り場：盛り場を通じて都市の系譜をたどる 第14回：都市の住宅問題とニュータウン：世界と日本の住宅問題とニュータウン開発の歴史 第15回：都市を知覚する：都市のイメージとメンタルマップが描き出す世界 定期試験			

テキスト
よくわかる都市地理学（ミネルヴァ書房）
参考書・参考資料等
現代社会の人文地理学（古今書院）、地理学への招待（古今書院）、地理学概論（朝倉書店） 経済地理学への招待（ミネルヴァ書房）、テキスト都市地理学（中央経済社）
学生に対する評価
定期試験（60%）、毎回の授業時に提出してもらう用紙（30%）、講義に関連したテーマ について自由な意見を求める小レポート（10%）

授業科目名：人文地理学	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 全 ウンフィ
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では、人文地理学の主要な研究対象である都市を題材に人文地理学の基本的理論をまなび、都市とその周辺の諸現象・課題を解説します。また人文地理学の見方と主要なテーマを学習し、人文現象に関する地理学的思考力を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、人文地理学の見方と主要なテーマを学習する。人文地理学は、地理学の中でも人間と人文現象を扱う分野である。人口・産業・都市・観光など、人間の営みに関わる複雑多様な事象を、事象が成り立つ空間や場所、環境との関係から考える。私たちは、どこかに生まれ育って、どこかに進学・就業し、どこかに暮らしながら、買い物や観光をする。本講義では「地域」というレンズを通して、その「なぜ・どのように」を地理学的に考えていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス：講義の概要や進め方を確認</p> <p>第2回：人文地理学はどのようにできたか：地図という道具</p> <p>第3回：人文地理学の見方と課題：「地域」というレンズ</p> <p>第4回：計量革命と「空間」の見方</p> <p>第5回：都市①近代都市の形成と工業立地</p> <p>第6回：都市②近代都市と人口の移動</p> <p>第7回：都市③都市の膨張と郊外化</p> <p>第8回：消費行動と観光の地理：郊外から海外へ</p> <p>第9回：経済発展と社会問題①：インナーシティと少子高齢化</p> <p>第10回：経済発展と社会問題②：環境問題と住民運動</p> <p>第11回：グローバル化と地域①：まちづくりとまちおこし</p> <p>第12回：グローバル化と地域②：日本の中の外国・外国人</p> <p>第13回：グローバル化と地域③：地域間・国家間協力の取り組み</p> <p>第14回：ジェンダーと障害の地理：家から「地域」へ</p> <p>第15回：まとめ：講義全般に関する補足と確認</p>			

定期試験
テキスト
規定のテキストなし
参考書・参考資料等
上野和彦・椿真知子・中村康子編（2015）『地理学概論（第2版）』朝倉書店 竹中克行編著（2015）『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房 山口覚ほか著（2019）『図説 京阪神の地理:地図から学ぶ』ミネルヴァ書房
学生に対する評価
期末テスト（70）とレポート（30）で評価する。テストやレポートに関しては講評を掲載し、フィードバックに努める。

授業科目名：自然地理学	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 別所秀高
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：自然環境と人間社会の相互関係、災害、自然環境、地形学、気候学、水文学</p> <p>到達目標： われわれの日常生活場は自然災害と隣り合わせにあり、いつ自然災害に直面してもおかしくない状況下にあることを再確認する。社会科・地歴科教員および技術者としての基礎的な教養や理解力を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>自然地理学は自然環境と人間社会の相互関係を追究する学問領域であり、その分野は地形学、気候学、水文学など多岐にわたる。自然環境は岩圏、気圏、水圏、そして生物圏から構成され、それらの相互作用はしばしば人間社会にとっての災禍を発生させてきた。本講義ではとくに自然災害が発生するメカニズムから自然地理学の基礎、および自然地理学と人間社会の関わりについて学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：自然地理学へのいざない 自然地理学とは？社会と自然地理学，自然地理学を学ぶ意味</p> <p>第2回：プレートテクトニクス—大地は動く，上下左右に 地球科学のパラダイムシフト、プレートテクトニクスという考え、身近に感じるプレートテクトニクス、地球の内部を観る</p> <p>第3回：日本列島の生いたちと世界の大地形—大陸から分かれた日本列島 切り離された日本列島—観音開きモデル，付加体—セメントはどこから来たか？日本列島は縞模様，世界の大地形を俯瞰する</p> <p>第4回：地震のメカニズム—共生するための知恵・知識 地震発生メカニズム，地震の基礎，断層は危険？地震予知という虚言，地震への備え</p> <p>第5回：火山のメカニズム—リング・オブ・ファイヤーとその恩恵 火山の基礎，火山と地震とプレート境界の奇妙な一致，水がマグマをつくり出す!?火山噴火型の決定要素，噴火様式の類型，温泉というめぐみ，始良カルデラ（桜島）噴火史</p>			

第6回：地形をつくる営力—大地の凹凸を理解する

地形をつくる2種の営力，風化・削剥・侵食・運搬・堆積—地層から逆解析する，斜面形成—柏原市亀の瀬地すべり

第7回：山地・丘陵地・台地・低地の地形—人新世（アンソロポシン）の開発思考

人新世という地質年代，地形種別人口割合の推移，山地・丘陵地・台地・低地を見分ける

第8回：低地の特徴と災害—河川災害や土砂災害，そして社会への警鐘

流路—自然堤防—後背低地という地形配列，河成低地（扇状地・蛇行原・三角州）の諸特性および形成過程，海成低地の特徴，ビーチからオリジナル地形を想像する

第9回：日本の気候—天気と天候，気象と気候，そして植生

天気と天候，気象と気候，気象学と気候学，日本の気候を支配する気団，日本の気候区分と日常生活，日本の多様な植生

第10回：世界の気候—大気の大循環と気候区分

熱輸送，大気循環と海流，世界の気温分布と降水分布，世界の気候区分，ケッペン気候区分のしくみ

第11回：身近な気候—「浜風」，そして阪神タイガースにホームラン打者が育たない理由

大気境界層の気温変化，地面の熱収支，沿岸と内陸の気候，都市の気候—ヒートアイランド，山岳でできやすい雲，地形が生み出す局地風，甲子園「浜風」とは何か？

第12回：都市の気候と地球温暖化—政治主導の気候変動？

日本と世界の平均気温の変化，地球温暖化，温室効果のメカニズム，海洋酸素同位体から過去の気候を探る

第13回：水の循環—蛇口をひねれば水が出るという幸せ

水は循環する，河川縦断形，堤防・放水路・浚渫，地下水，地下水過剰採取，水資源と水利用

第14回：大阪平野の自然地理（1）

大阪150万年の地形発達史からわれわれの活動する大地の成り立ちを学ぶ

第15回：大阪平野の自然地理（2）

過去の災害と淀川・大和川の治水史を学ぶ

定期試験

学期末考査として実施する

テキスト

毎回KVCを通じて配信するので，予めプリントアウトして持参すること

参考書・参考資料等

日下博幸(2013)「学んでみると気候学はおもしろい」(ベレ出版)

高橋日出雄・小泉武宮(2011)「自然地理学概論(地理学基礎シリーズ2)」(朝倉書店)

山賀進(2010)「一冊で読む地球と歴史のしくみ」(ベレ出版)

木庭元晴編著(2007)「宇宙 地球 地震と火山」(古今書院)

学生に対する評価

不定期に課すショートレポート:50%

学期末レポート:80%

不定期に課すショートレポート50%, 学期末のレポート80%で評価します。ただし、最大点数は100点です。

授業科目名：地域経済論	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：山本俊一郎
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>〔テーマ〕 地域スケールの違いを認識しながら地域社会の現状と課題、ならびに地域経済活性化の方策を学ぶ</p> <p>〔到達目標〕 受講後には、産業地域の形成過程とその変容について理解し、その知識を用いながら地域独自の発展に向けた政策について自分の考えが説明できるようになることが目標である。本講義で身につく力は、大阪経済大学経済学部のDP1・2に掲げている知識や能力の修得につながる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>近年、持続的な発展を遂げる地域に注目が集まっている。そこで、本講義では、大都市圏、地方中枢都市、中核都市、中小都市、と都市のスケール別に、日本の地域経済構造を学ぶ。また、経済的要素にとどまらず、地域の歴史や制度、慣習などの社会文化的側面に注目して、地域経済の活性化の要因について学習する。地域経済の活性化に向けては、まず何よりも地域特性の認識や地域資源の再発見が必要であり、様々な視点から地域経済の現状を捉え、今後の経済振興策について理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：地域をとらえる視点 地域経済の基礎理論 授業の目的・概要・進め方・評価方法等の説明と、地域経済の分析手法について学ぶ。</p> <p>第2回：地域創発型の産業振興 地域経済循環と地域構造について学ぶ。</p> <p>第3回：日本の大都市圏－世界都市 東京－ 世界都市となった東京の経済・地域構造について学ぶ。</p> <p>第4回：大都市産地の優位性－東京都台東区－ 工業地帯としての側面を持つ東京の特徴について学ぶ。</p> <p>第5回：自動車工業都市－豊田 鈴鹿－ 輸送用機器が経済発展を牽引する地域の動向を学ぶ。</p>			

第6回：地方中枢都市の成長－札幌 仙台 広島 福岡－

地方中枢都市における経済上部機能とは何か、それがどのように都市発展に関わっているかについて学ぶ。

第7回：地方中核都市の内発的発展－金沢－

内発的発展論とその限界について考察する。

第8回：企業誘致と地域発展－北上 米沢－

企業誘致による地域経済発展の方策について学ぶ。

第9回：地方工業都市の衰退と自立に向けて－新潟県燕市－

工業の空洞化が進む中において、地方の工業地域が持続的に発展をするための方策について学ぶ。

第10回：地方工業都市の衰退と自立に向けて－岩手県水沢市－

低迷が続く地場産業の抱える課題と、これらの課題を克服するための産業政策について学ぶ。（1）

第11回：地場産業地域の現状と課題－宮城県石巻市－

低迷が続く地場産業の抱える課題と、これらの課題を克服するための産業政策について学ぶ。（2）

第12回：中山間地域における経済活性化－大分県日田市－

過疎が進む農村がどのようにむらおこしを進めていくべきか考察する。

第13回：地域ブランドの育成

市場が飽和するなか、地域が生き残るためにどのように魅力を発信していくべきか考察する。

第14回：商店街の再生とコミュニティビジネス

シャッター商店街など、商店街が抱える課題について理解し、これらの課題を克服するための政策について学ぶ。

第15回：地域経済政策の軌跡と展望

地域経済を支える政策のあり方について考察する。

定期試験

テキスト なし 講義中に適宜紹介する。

参考書・参考資料等

松原宏編『地域経済論入門』古今書院，2014年。

学生に対する評価

講義スライドの内容に基づいて実施する定期試験によって評価する。

授業科目名： 地域開発論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 梅村 仁
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：まちづくりの概念と地域活性化の手法を学ぶ</p> <p>【到達目標】</p> <p>(1) まちづくりとは何かを理解すること。</p> <p>(2) まちづくりの手法は多様であることを認識すること。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>経済社会の成熟化が進み、少子高齢化、グローバル化、財政の逼迫化、価値観の変化・多様化など地域を巡る環境は大きく変容している。こうした中、各地域では、地域の個性や魅力を活かした地域の選択と責任を重視した主体的なまちづくりが求められている。本講義では、こうした環境変化のもとで求められるまちづくりの方向性について概観した上で、地域全体をどのように変革していくのか、自治体、企業、地域のコミュニティなどの多様な組織が抱える問題やその解決方法について事例分析を交えながらこれからのまちづくりについて検討する。</p> <p>キーワード：地方都市、若者、移住者、連携（繋がり）</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：今なぜ、まちづくりなのか</p> <p>第2回：まちづくりの枠組み</p> <p>第3回：都市とは何か</p> <p>第4回：まちづくりを進めるための仕組み</p> <p>第5回：パートナーシップとまちづくり</p> <p>第6回：災害とまちづくり：東日本大震災</p> <p>第7回：まちを創る・都市計画</p> <p>第8回：まちの賑わいづくり・中心市街地活性化①商店街再生</p> <p>第9回：まちの賑わいづくり・中心市街地活性化②活性化の新たな手法</p> <p>第10回：まちの賑わいづくり・中心市街地活性化③地域観光</p> <p>第11回：まちの活性化と地域産業①エコノミックガーデニング</p> <p>第12回：まちの活性化と地域産業②小さな経済づくり</p>			

第13回：まちづくりと地域交通

第14回：まちづくりとコミュニティデザイン

第15回：まちづくりの展望

定期試験

テキスト

講義資料はKVCにて配布する。

参考書・参考資料等

石原武政・西村幸夫編『まちづくりを学ぶ 地域再生の見取り図』有斐閣ブックス、2010年

藻谷浩介『里山資本主義 日本経済は「安心の原理」で動く』角川書店、2013年

梅村仁『自治体産業政策の新展開』ミネルヴァ書房、2019年

梅村仁編『実践から学ぶ地域活性化』同友館、2021年

学生に対する評価

期末試験、レポート提出状況により成績評価を行います。なお、講義への参加については、毎回フィードバックレポートの作成を果たし、受講の理解度を確認する。

授業科目名：経済地理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：山本俊一郎
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>〔テーマ〕立地論を学ぶ・ポストフォーディズムにおける経済変化をとらえる。</p> <p>〔到達目標〕最終試験時には、立地論の内容理解はもちろん、現在の大量生産から多品種少量生産、工業社会から高度情報社会への変化のなかで、産業地域の形成過程とその変容について説明ができることを目標としている。また、この講義をつうじて、グローバルな視点からローカルな問題を考えるグローバルな考えを身につけることを狙いとしている。本講義で身につく力は、大阪経済大学経済学部のDP1・2に掲げている知識や能力の修得、ならびに企業社会、地域社会における問題を解決するための方策を考えることができる力の修得につながります。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>経済地理学は、主に地域の視点から地表上のあらゆる経済現象を対象に、その空間的展開についての解明を目指してきました。そのため研究領域は経済理論からフィールドワークの基づく詳細な実証研究まで多岐にわたります。本講義では、まず農業、工業、商業における理論的な立地論を学習し、その後、現在の産業地域の形成と変容過程について学びます。産業立地の基本的な法則を学んだ後は、現在のわが国の経済動向を把握します。そこでは、各業種における事例地域を取り上げ、各地域の現状と課題について具体的に紹介していきます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：経済地理学とは 経済地理学の学問体系を理解する。</p> <p>第2回：大量生産から多品種少量生産への転換による産業地域の変容 フォーディズムからポストフォーディズムへの時代変化を理解する。</p> <p>第3回：工業立地論 産業立地と地域開発の変遷 工場の立地要因を輸送・労働コストや産業集積の側面から理解する。また我が国の国土政策について学ぶ。</p> <p>第4回：フレキシブルな生産体制 「新しい産業空間」 トヨタ生産方式を事例に、不確実性の高い市場にどう対応していくのかについて学ぶ。</p> <p>第5回：シリコンバレーとルート128の産業集積</p>			

産業地域の活性化に社会文化的要素がいかに関係しているかについて、シリコンバレーとボストンを比較しながら理解する。
第6回：サードイタリーの産業集積 中小企業が水平的な取引ネットワークを構築することで、どのように市場の変化に柔軟に対応しているかについて理解する。
第7回：産業集積地域の優位性 産業集積地域の特徴、ならびに集積によって生じる利益について学ぶ。
第8回：産業クラスター理論の有効性 産業クラスター論を学び、産業集積とイノベーションの関わりについて理解する。
第9回：国際工程間分業の進展 産業の空洞化を考える グローバル化のなかで、我が国の製造業がどのように高付加価値生産体制を構築しているのか学ぶ。
第10回：ソーシャルキャピタルの重要性 目に見えない無形資産がどのように経済発展と関わっているのかについて理解する。
第11回：農業立地論 日本の農業の効率性を考える 都市と農村との距離から利益を最大化する農業立地を考えるとともに、我が国の農業の現状を理解する。
第12回：中心地理論 なぜ都市には大小があり、なぜ日本は東京一極集中するのか、都市配置を理論的に考える。
第13回：都市システムと生活空間 都市の内部構造を理解する。
第14回：価値創造と経済発展 多様性、創造性をキーワードに現在の経済発展に必要な要素について考える。
第15回：まとめ これまでの内容を振り返り、さらなる理解につなげる。
テキスト なし 講義スライド中に適宜紹介する。
参考書・参考資料等 伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編著『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房、2020年。 そのほか、講義スライド中に適宜紹介する。
学生に対する評価 講義スライドの内容に基づいて提出する課題レポートの記述内容によって評価する。

授業科目名：都市計画	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鵜飼 修
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】 都市計画とまちづくりの基礎知識、および、その持続可能性についての考え方を学ぶ。</p> <p>【到達目標について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市や「まち」の生成の仕組みを説明できる ・都市や「まち」の形態と理念について事例で説明できる ・持続可能なまちづくりの理念と事例を説明できる ・地域デザインの手法を説明できる ・先駆的な地域再生、地域活性化の事例を説明できる ・未来の暮らしのあり方について対話することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>世界的に見ても希有な人口減少・超高齢化時代に入った日本において、私たちはどのような暮らしをすべきなのか。都市計画や地域づくり・まちづくりの視点から私たちの暮らしのあり方を考える。具体的には、都市や「まち」の生成の仕組みや、様々な形態・理念を学ぶとともに、持続可能性の探究など近未来の方向性を概観する。さらに、地域診断法やコミュニティ・ビジネスなど都市や地域をデザインするための手法と、先駆的な地域再生、地域活性化事例からその要点を学び、私たち自身の暮らしのデザインへのヒントを得る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：都市計画と地域まちづくり 身近な都市や「まち」がどのように生まれるのかその仕組みを学ぶ</p> <p>第2回：理想的な都市とは何か 過去から未来まで、様々な都市の姿とその理念・展望を学ぶ</p> <p>第3回：持続可能なコミュニティづくり エコビレッジなど持続可能性を求めた取り組みを学ぶ</p> <p>第4回：地方創生と住民主体の地域まちづくり 近年の地域まちづくり実践事例を概観する</p> <p>第5回：地域デザイン手法</p>			

<p>コミュニティ・デザインなど地域をデザインする手法を学ぶ</p> <p>第6回：先駆的な地域再生・地域活性化の取り組みに学ぶ 1 やねだんにおける取り組みに学ぶ</p> <p>第7回：先駆的な地域再生・地域活性化の取り組みに学ぶ 2 上勝町における取り組みに学ぶ</p> <p>第8回：先駆的な地域再生・地域活性化の取り組みに学ぶ 3 コミュニティ・デザインの取り組み事例に学ぶ（スタジオL）</p> <p>第9回：先駆的な地域再生・地域活性化の取り組みに学ぶ 4 四万十周辺での取り組みに学ぶ（梅原真）</p> <p>第10回：先駆的な地域再生・地域活性化の取り組みに学ぶ 5 羽咋市における取り組みに学ぶ（高野誠鮮）</p> <p>第11回：先駆的な地域再生・地域活性化の取り組みに学ぶ 6 西粟倉村の取り組みに学ぶ</p> <p>第12回：地域診断法をマスターする 1 地域の価値（特性）の活かし方として、コミュニティ・ビジネスの手法を学ぶ</p> <p>第13回：地域診断法をマスターする 2 地域の価値（特性）の見出し方として、地域診断法を学ぶ</p> <p>第14回：地域診断法をマスターする 3 地域の価値（特性）を活かした課題解決の提案を試みる</p> <p>第15回：まとめ 授業をふりかえり、都市や地方、まちづくりの近未来やあり方と、私たちの暮らしのあり方について議論する</p>
<p>テキスト</p> <p>資料を授業前に配信します。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「生活の視点でとく都市計画」薬袋奈美子ほか，彰国社，2016</p> <p>「小舟木エコ村ものがたり：つながる暮らし、はぐくむ未来」NPO法人エコ村ネットワーク，サンライズ出版，2011</p> <p>「地域診断法－鳥の目、虫の目、科学の目－」鶴飼修，新評論，2012</p> <p>その他、授業中に適宜紹介します。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>毎回配布するワークシートの提出と評価：90%（各回6点×15回）</p> <p>最終課題とレポート：10%</p>

授業科目名：都市政策	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 辻本乃理子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会及び高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】</p> <p>都市と環境のサステナビリティ</p> <p>【達成目標】</p> <p>（1）わが国の都市の現状と課題が理解できる。</p> <p>（2）なぜそのようなまちづくりの政策・手法が行なわれているか理解できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>【授業概要】</p> <p>現在のわが国は少子高齢化の進展、人口減少社会の到来、地域間格差だけでなく人々の生活そのものも格差は拡大し、都市も人間も疲弊している。</p> <p>本講義では、都市問題の解決のために世界的な取り組みとなっている都市と環境のサステナビリティをテーマに講義を進める。住み続けたい、住み続けることができる都市とはどのようなものか。どのような政策、手法が必要であるのか。日本における現状と課題を整理し、欧米の事例を参考にしながら「持続可能な社会」実現のためのわが国の都市政策のあり方について考察する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：講義概要と講義計画、成績評価基準の説明・講義目標の解説</p> <p>第2回：わが国の都市、生活環境の変化</p> <p>第3回：わが国の都市の現状</p> <p>第4回：地方分権とまちづくり①（地方分権と地方改革）</p> <p>第5回：地方分権とまちづくり②（国、地方自治体の動き・今後の課題）</p> <p>第6回：都市計画制度と行政</p> <p>第7回：中心市街地の衰退と活性化</p> <p>第8回：都市政策と地域コミュニティ</p> <p>第9回：サステイナブル・シティ</p> <p>第10回：コンパクト・シティ</p>			

第11回：わが国の環境保全に関する法律・政策

第12回：ヨーロッパ・EUの都市政策

第13回：英国の都市政策

第14回：わが国と海外の都市再生について

第15回：講義全体の内容の確認と総括

定期試験

テキスト

特に指定しない。必要に応じて参考資料配布。講義中にレジュメ配布。

参考書・参考資料等

海道清信『コンパクトシティ 持続可能な社会の都市像をもとめて』学芸出版社（2001年）

鈴木浩『日本版コンパクトシティ地域循環型都市の構築』学陽書房（2007年）

岡部 明子『サステイナブルシティEUの地域・環境政策』学芸出版社（2003年）

伊藤滋、小林重敬、大西隆（監修）『欧米のまちづくり・都市計画制度 サステイナブル・シティへの途』ぎょうせい（2004年）

濱田 恵三『まちづくりの理論と実践』創成社（2011年）

濱田 恵三（著，編集），伊藤 浩平（著，編集），神戸 一生（著，編集），山本 誠一（著），辻本 乃理子（著），中川 佳英子（著），栗原 正憲（著）『地域創生の戦略と実践』晃洋書房（2018年）

学生に対する評価

学期末試験：70%（到達目標に記載したことがらの達成度を測る試験）

講義中に課す小レポート等の課題：30%（トピックのまとめり毎に講義の理解度を確認する課題・レポート等の提出）

課題点は記述内容の充実度、分量など総合的に判断し採点する。

提出された課題の記述内容の紹介や評価コメントについては、講義中に行う。

講義を妨害する行為等がある場合は減点する。

授業科目名：地誌	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：長谷川達也 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・地理学（地誌を含む。） ・地誌		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>毎回の授業では世界の各地域からそれぞれ1カ国もしくは地域を取り出し、社会、民族、産業や地域の抱える課題などを考察します。また、後半には日本を例にして地域性や地域を支える取り組みを紹介、持続的な発展のありかたについて考察します。</p> <p>到達目標は1.世界の国ぐにの成り立ちについて、具体例を2つ以上まとめることができる。2.世界の各地域の特色を理解し、それぞれの違いを説明できる。3.世界の各国・地域がかかえる諸問題に関心をもち、その解決に向けて地理的技能を活用することができる。4.日本の地域区分とその定義について説明できる。5.日本の各地域の特色、ローカルな魅力を発信する取り組みを理解し、地域振興、町おこしのアイデアを創出できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>世界地誌では毎回各地域から具体的な国や地域を取り上げその概要を説明した上で、映像資料を交えつつ各地域の特質、地域の抱える課題等を明らかにし、その解決法や持続的な発展のあり方を考えてもらいます。日本地誌では日本の姿を大きくとらえたうえで国内各地の地域性に注目し、具体的な取り組みを紹介し、その可能性について自分の考えをまとめてもらいます。世界地誌、日本地誌ともに各回の授業で提出してもらった意見等のフィードバックを次回以降の授業で実施します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション・地誌をまなぶ意義、世界や日本を知ることの意味</p> <p>第2回：世界の国旗・国歌から世界の地勢、地域の特質を知る</p> <p>第3回：アジアの地誌（1）東南アジア：わたしたちの暮らしの近くにあるASEAN諸国</p> <p>第4回：アジアの地誌（2）南アジア：インド発展の要因を探る</p> <p>第5回：アジアの地誌（3）西アジア：イスラーム世界とサウジアラビア</p> <p>第6回：アフリカの地誌：南アフリカ共和国の歴史と現在</p> <p>第7回：ヨーロッパの地誌：ヨーロッパ統合の試み、EUの歩みとその課題</p> <p>第8回：アングロアメリカの地誌：多文化国家アメリカと多様性の揺らぎ</p> <p>第9回：ラテンアメリカの地誌：ブラジルと日本、2つの国をつながり解く</p> <p>第10回：オセアニアの地誌：大国の犠牲となるオセアニアの小さな国々</p> <p>第11回：日本地誌（1）：日本のすがたと地域区分</p>			

第12回：日本地誌（2）：統計からみた日本と都道府県

第13回：日本地誌（3）：県民性と風土、生まれ育った場所で性格が変わる！？

第14回：日本地誌（4）：ローカルな魅力を発信するチャレンジと地域の持続可能性

第15回：日本地誌（5）：ミクロな地誌・大経大周辺を探検する

定期試験

テキスト

図解地図資料（帝国書院）

参考書・参考資料等

日本の地誌（古今書院）、図説世界の地誌（古今書院）、授業のための世界地理（古今書院）

授業のための日本地理（古今書院）

学生に対する評価

定期試験（60%）、毎回の授業時に提出してもらう用紙（30%）、講義で紹介した国・地域についての小レポート（10%）。

授業科目名： 地域文化論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 稲井啓之 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・地理学（地誌を含む。） ・地誌		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【準備学習について】</p> <p>私たちの日常生活には、ありとあらゆるところに、思いがけない「地域」の思いがけない「地域文化」があふれています。今、口にした食事の素材がいったいどこの誰によってつくられ、どういう経路であなたのもとにやってきたのか？モノの背景を想像する力は地域文化を理解する出発点です。想像力を養って下さい。</p> <p>【到達目標について】</p> <p>地域文化論の授業をとおして、多様性を尊重し、主体的に他者と関わり、地域社会・企業社会・国際社会とつながることを目指します。単に「知識を得る・覚える」のではなく、多様な生き方・価値観に触れ、自ら「感じ・考え・表現／行動する」力を身につけることを目指します。すなわち、①他者の文化・価値観に向き合う中で自ら感じたことを問いとして深め、考える力、そして、②他者の問題を自らの問題としてとらえなおす力、③感じ考えたことを他者に伝わるように自分の言葉で表現し、さらには行動する力、です。</p> <p>【学習上の注意】</p> <p>それぞれの講義ごとにまとまった話ですが、全体として一貫性をもっています。毎回受講を目指してください。なお、毎回の講義の最後に提出するコミュニケーション・シートの内容を、講義の内容やテーマなどに反映させて授業を進めていきたいと思っています。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>地球上のあらゆる「地域」は、いま、新しい局面をむかえています。人、モノ、情報が国境を軽々と越えて交錯し、考え方や規範、文化、価値観が画一化の時代に入っているとされている一方で、「地域」に暮らす人々自身が、地域社会・地域文化の固有性・多様性、そしてその重要性をつよく認識し、積極的に「地域」と「地域文化」を構築しよう動きはじめています。また「地域」固有の文化は、地球上のあらゆる「地域」の政治・経済・文化と無関係ではいられず、さまざまに絡み合い、つよく影響しあっています。本講義では、アジアやヨーロッパ、アフリカの「地域」をとりあげ、その多様な文化を紹介しながら、一見、日本で暮らすわれわれとは無関係に思える彼らの文化・価値観を、自らの暮らし・文化・価値観と結びつけな</p>			

から理解し、その関係性を考えていきます。

授業計画

第1回：イントロダクション：「地域」とは？「文化」とは？「地域文化」とは？

第2回：アフリカの地域文化：アフリカの水産業から考える

第3回：アフリカの地域文化：ニジェール河の漁師たちの移動文化

第4回：アフリカの地域文化：ヴィクトリア湖のナイルパーチをめぐる問題

第5回：アフリカの地域文化：ヴィクトリア湖のナイルパーチ問題をめぐる論争

第6回：日本の地域文化：捕鯨を考える（捕鯨論争の背景）

第7回：日本の地域文化：捕鯨問題を考える（捕鯨をめぐる世界的な論争）

第8回：ヨーロッパの地域文化：食文化を歴史の中で考える

第9回：ヨーロッパの地域文化：地中海の食文化と多様性

第10回：ヨーロッパの地域文化：スペイン・カタルーニャの文化と食

第11回：グローバル化の中の地域文化：シルクロードと麵文化の拡散

第12回：グローバル化の中の地域文化：中世におけるサハラ沙漠のコスモポリタン

第13回：グローバル化の中の地域文化：コーヒーとフェアトレード

第14回：アフリカの地域文化：エボラ熱の流行と地域社会の対応

第15回：授業全体の確認と総括

テキスト

講義中に資料を配布します。

参考書・参考資料等

講義中に適宜紹介します。

学生に対する評価

講義への参加：50%（毎回の講義後に提出するチェックシートを提出してもらい、翌週に質問やコメント内容について講評を行う）、テーマごとの小テスト：50%（テーマごとに学習内容を各自で理解したことや考えたことについて確認します。

授業科目名： アメリカン・スタデ イーズ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大野 あずさ
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地 理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・地理学（地誌を含む。） ・地誌		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：アメリカのエスニック・グループについて 到達目標： 1. アメリカの文化や社会について基礎的な理解を得る。 2. アメリカの多様なエスニック・グループと彼らの歴史・現在について、それぞ れの特殊性と他のグループとの共通点を認識する。 3. 講義の内容について意見を持ち、ディスカッションや論述で表現する能力を養 う。			
授業の概要 本講義ではアメリカの文化と社会について、特に民族的マイノリティ (Ethnic Minority) の人々 に焦点を当てる。学期の前半はアメリカの地理、歴史を含む基礎情報について知識を得ること を目標とする。後半はアフリカ系アメリカ人、アメリカ先住民、アジア系アメリカ人など各週 一つの民族グループに注目し、彼らの特色ある歴史や文化について学ぶ。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、「アメリカ」とは？ 第2回：アメリカの地理1（基本情報、地域の特色、地域格差） 第3回：アメリカの地理2（経済、社会、文化） 第4回：アメリカの歴史1（コロンブスのアメリカ到達以前～19世紀前半） 第5回：アメリカの歴史2（19世紀後半～現在） 第6回：「マイノリティ」とは？ 第7回：レビューセッション1（アメリカの地理、歴史、マイノリティに関する振り返り） 第8回：アフリカ系アメリカ人 第9回：アメリカ先住民 第10回：ラテン系アメリカ人 第11回：日系アメリカ人 第12回：アジア系アメリカ人			

第13回：ヨーロッパ系アメリカ人

第14回：レビューセッション2（アメリカのマイノリティ・グループに関する振り返り）

第15回：講義の振り返りとまとめ

テキスト

明石紀雄・飯野正子著『エスニック・アメリカ：多文化社会における共生の模索』第3版（有斐閣選書、2011年）

参考書・参考資料等

授業内に随時紹介

学生に対する評価

授業内試験（60%）、授業参加点（40%）を基準に評価

授業科目名： フランス語圏文化論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木隆芳 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校社会及び高等学校地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・地理学（地誌を含む。） ・地誌		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】</p> <p>フランス語圏の歴史・経済、社会、文学・思想・文化のうちからいくつかを取り上げます。文化面から社会や経済のしくみを考えてみよう、という授業です。</p> <p>【到達目標について】</p> <p>発表を資料を作成した上で口頭で行い、その際に、物語の概要と解釈を伝えることができる。テキストが生じた社会的および歴史的な背景についての見識を深め、内容に即した議論ができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>トッド（人口学）、ブルデュー（社会学）、ピケティ（経済学）等のテキストを読み、ディスカッションを行いつつ、以下の①～③問題について考えます。</p> <p>① なぜ日本人とフランス人は大きく考え方が異なるのか、という問題を家族のあり方を通じて考えます。</p> <p>② なぜ趣味や好みが社会階層によって異なるのか、という問題について文化資本を通じて考えます。</p> <p>③ なぜお金持ちと貧しい人では世界の見方が異なるのか、という問題を資本の性質を通じて考えます。</p> <p>以下は、学生の発表を含むテーマです。</p> <p>④ ブドウ栽培（飲むブドウです）を通じてグローバリゼーションについて考えます。</p> <p>⑤ 文学作品を通じて人と人のつながりを考えます。</p> <p>日本や英語圏とは異なる視点や考え方に触れることで社会の多様性への理解が深まれば良いと思っています。文学作品についてはみなさんに発表してもらう予定です。</p> <p>【キーワード】 フランス、ブルデュー、トッド、ピケティ、ブドウ</p>			
<p>第1回：フランス語圏とはなにか？：フランス語を話す地域の特質</p> <p>第2回：フランス史概説（1）：ローマ～フランス革命までのフランスの歴史概説</p> <p>第3回：フランス史概説（2）：革命以降のフランスの歴史概説</p> <p>第4回：フランスの経済学：富の分配について、トマ・ピケティを例に</p>			

第5回：フランスの人口学：家族システムについて、エマニュエル・トッドを例に
 第6回：フランスの少子化対策：フランスではなぜ出生率が回復したのか
 第7回：フランスの社会学（1）：社会階層について、ピエール・ブルデューの理論を例に
 第8回：フランスの社会学（2）：社会階層について、文化資本を例に
 第9回：フランスの対外輸出商品について：ワイン産業を例に
 第10回：文学作品を通してみるフランス社会（1）：宿命の女について プレヴォ『マノン・レスコー』
 第11回：文学作品を通してみるフランス社会（2）：神と寛容について ヴォルテール『カンディード』
 第12回：文学作品を通してみるフランス社会（3）：富と格差について バルザック『ゴリオ爺さん』
 第13回：文学作品を通してみるフランス社会（4）：上昇志向について フロベール『ボヴァリー夫人』
 第14回：文学作品を通してみるフランス社会（5）：社会の強制力について カミュ『異邦人』
 第15回：フランス語圏文化の多様性・重層性について：なぜフランス語圏文化は、こうした特殊性を持つに至ったのか

定期試験

テキスト

トマ・ピケティ『21世紀の資本』山形浩生訳、みすず書房、2014年。
 エマニュエル・トッド『問題は英国ではない、EUなのだ』堀茂樹訳、文春文庫、2016年。
 ピエール・ブルデュー『ディスタンクシオン』I, II, 石井洋二郎訳、藤原書店、1990年。
 自らが発表を担当する文学作品（すべて文庫あり）は購入してもらいます。

参考書・参考資料等

加藤晴久『ブルデュー：闘う知識人』講談社、2015年。
 100de名著 ブルデュー『ディスタンクシオン』、NHK、2020年。

学生に対する評価

テスト：40%
 口頭での発表：40%
 授業中の議論での発言：20%

授業科目名： 社会科・地理歴史科 教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石原 幸一 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)		
授業の到達目標及びテーマ 社会科教育の歴史と課題を知り、新しい能力を意識した社会科教育の目標とめざすべき社会科教育実践について構想でき、授業づくりの基礎的技能を身に付ける			
授業の概要 本講義は、中学校及び高校社会科教員をめざす学生が、「社会科とは何か」「何をどう教えるか」について学び、学校現場に出た時に必要な教科指導の力と授業力の基礎を培うことを目的としている。そのために、社会科教育の歴史、戦後社会科教育と学習指導要領の変遷、社会科教育実践史への理解を通して、今日の社会科教育の目標と課題について考える。また、中等社会科教育の優れた実践例と特徴ある教材を分析することにより、今日の教育課題に対応する中等社会科教育の実践力の基礎を培う。			
授業計画 第1回 なぜ社会科を学ぶのか 第2回 社会科の歴史 第3回 学習指導要領と社会科の変遷 第4回 社会科教育実践史 第5回 学習指導要領の内容と特徴 第6回 授業の5つの要素①目標～新しい能力 第7回 授業の5つの要素②評価～目標に準拠した評価 第8回 授業の5つの要素③の1方法～フィールドワーク、地域に学ぶ 第9回 授業の5つの要素③の2方法～地域を教材化する 第10回 授業の5つの要素④内容～知識の構造化図を使って 第11回 授業の5つの要素⑤組織～一斉・個別・協働、AL、ディベート、討論の授業 第12回 学習指導案の書き方 第13回 授業づくりの技術～導入・展開・まとめ、板書と発問、WS、テストなど 第14回 デジタル教科書とICT活用 第15回 地理の授業づくり、歴史の授業づくり～「地理総合」「歴史総合」を中心に 定期試験 なし			
テキスト			

「中等社会科ハンドブック 社会・地歴・公民授業づくりの手引き」(二谷貞夫他編 学文社)

「中等社会科の理論と実践」(二谷貞夫・和井田清司編 学文社) 他プリント

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領(平成29年告示 文部科学省)、高等学校学習指導要領(平成30年告示 文部科学省)、中学校学習指導要領解説社会編(平成29年告示 文部科学省)、高等学校学習指導要領解説 地理歴史編(平成30年告示 文部科学省)

学生に対する評価

平常点100%(授業態度、振り返り文、小テスト、レポート、学習指導案)

授業科目名： 社会科・地理歴史科 教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石原 幸一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会及び高等学校 地理歴史)		
施行規則に定める 科目区分	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)		
授業の到達目標及びテーマ 中等社会科の地理・歴史の授業づくりについて理解し、学習指導案が作成できる。作成した授業案に基づいて模擬授業が行える。模擬授業の反省会で授業分析ができる。			
授業の概要 社会科・地理歴史科教育法Ⅰの講義を引き継いで行う。暗記中心、一方通行型の既存の授業イメージを脱して、生徒が楽しく能動的に学ぶ授業、ICT活用や問題解決型の授業、社会認識を育てる授業づくりをめざす。そのために学習指導案作りの実際を学んだ後、受講生全員が中・高いずれか1時間分の学習指導案を作成し、模擬授業を行い、実践的に教科指導力と授業づくりの力を培う。また、高校レベルの教材研究を学ぶためにミニレポートに取り組む。			
授業計画 第1回 ガイダンス、学習指導案の書き方①目標と評価 第2回 学習指導案の書き方②知識の構造化図を使って単元計画、内容 第3回 学習指導案の書き方③本時の展開 第4回 模擬授業の実施と反省①「知識・技能」を中心に 中学地理分野 第5回 模擬授業の実施と反省②「知識・技能」を中心に 中学歴史分野 第6回 模擬授業の実施と反省③「知識・技能」を中心に 高校地理 第7回 模擬授業の実施と反省④「知識・技能」を中心に 高校日本史 第8回 模擬授業の実施と反省⑤「知識・技能」を中心に 高校世界史 第9回 「知識・技能」を中心にした模擬授業のふり返り 第10回 模擬授業の実施と反省①「思考・判断・表現」を中心に 中学地理分野 第11回 模擬授業の実施と反省②「思考・判断・表現」を中心に 中学歴史分野 第12回 模擬授業の実施と反省③「思考・判断・表現」を中心に 高校地理 第13回 模擬授業の実施と反省④「思考・判断・表現」を中心に 高校日本史 第14回 模擬授業の実施と反省⑤「思考・判断・表現」を中心に 高校世界史 第15回 「思考・判断・表現」を中心にした模擬授業のふり返り 定期試験 なし			
テキスト プリント			
参考書・参考資料等			

「中等社会科ハンドブック 社会・地歴・公民授業づくりの手引き」(二谷貞夫他編 学文社)
「中等社会科の理論と実践」(二谷貞夫・和井田清司編 学文社) 中学校学習指導要領(平成29年告示 文部科学省)、高等学校学習指導要領(平成30年告示 文部科学省)、中学校学習指導要領解説社会編(平成29年告示 文部科学省)、高等学校学習指導要領解説 地理歴史編(平成30年告示 文部科学省)

学生に対する評価

平常点40%(授業態度、振り返り文、ミニレポート) 学習指導案30% 模擬授業30%

授業科目名： 学校インターンシップ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：樋口太郎・高津芳則 ・藤澤宏樹・中西修一朗 担当形態：オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校インターンシップは、教育実習をより充実したものとするべく、学校教育の実際について事前にできうる限り学んでおくことを目的とするものである。</p> <p>到達目標としては、以下の3点があげられる。</p> <p>①実際の交流を通して児童・生徒たちへの理解を深めること。</p> <p>②教育現場に身を置くことで教師という仕事の実際に触れ、理解を深めること。</p> <p>③現場で学んだことおよび他の学生との交流から、教育実習に向けて現時点での自身の教師としての力量を確認すること。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業内容は、大学の近辺に位置する小学校、中学校、高等学校での実習と、大学での講義・事後指導により構成される。</p> <p>大学近隣に位置する地域の学校において児童・生徒たちと教科・教科外の両面で関わり、学んできたことをプレゼンテーションの場を通じて交流し、アクティブラーニング的手法によって経験をより豊かなものとしていく。</p> <p>受講に際しては、児童・生徒たちと教育現場で接するということへの責任感が何よりも要求される。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： 授業の概要や計画、成績評価基準の説明、演習の目的の解説（担当：樋口太郎）</p> <p>第2回： 外部講師による講話（担当：高津芳則）</p> <p>第3回： 小学校でのオリエンテーション（担当：樋口太郎・中西修一朗）</p> <p>第4回： 小学校での実習①——児童と積極的に関わる（担当：樋口太郎）</p> <p>第5回： 小学校での実習②——教師という仕事についての理解も深めていく（担当：樋口太郎）</p> <p>第6回： 小学校での実習③——教育実習に向けての自身の課題を意識化していく（担当：樋口太郎）</p> <p>第7回： 小学校実習についての事後指導（担当：樋口太郎・高津芳則）</p> <p>第8回： 中学校でのオリエンテーション（担当：樋口太郎）</p> <p>第9回： 中学校での実習①——生徒と積極的に関わり、教師という仕事についての理解も深めていく（担当：樋口太郎）</p> <p>第10回： 中学校での実習②——教育実習に向けての自身の課題を意識化していく（担当：樋口太郎）</p>			

第11回： 中学校実習についての事後指導（担当：樋口太郎・中西修一朗）

第12回： 高校でのオリエンテーション（担当：樋口太郎）

第13回： 高校での実習①——生徒と積極的に関わり、教師という仕事についての理解も深めていく（担当：樋口太郎）

第14回： 高校での実習②——教育実習に向けての自身の課題を意識化していく（担当：樋口太郎）

第15回： 高校実習についての事後指導（担当：樋口太郎・藤澤宏樹）

定期試験は実施しない。

テキスト

なし

参考書・参考資料等

田島充士・中村直人・溝上慎一・森下覚『学校インターンシップの科学』ナカニシヤ出版、2016年。

学生に対する評価

活動状況、プレゼンテーションの内容、提出物の内容、議論への参加度などから総合的に判断する。

授業科目名： 人権教育論	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤澤宏樹
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 人権教育の目的・課題・方法について、議論し考えることにより、教員としての素養を養う。			
授業の概要 教育・福祉の現場で生じている人権侵害問題について検討を行う。			
授業計画 第1回：人権教育の課題と方法 第2回：人権教育の国際的動向 第3回：病気と差別その1—コロナウイルス禍の問題 第4回：病気と差別その2—ハンセン病問題 第5回：病気と差別その3—HIV・AIDS 第6回：「LGBT」と差別 第7回：障害のある人と差別・偏見 第8回：障害のある子どもへの教育支援 第9回：子どもの権利と家族—児童虐待を中心に 第10回：差別語・不快語—フォークソング・ロックの歌詞から考える 第11回：民族と差別 第12回：人種と差別 第13回：被差別民の歴史と生活その1—江戸時代まで 第14回：被差別民の歴史と生活その2—明治以降 第15回：人権教育の意義と展望そして課題			
定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 藤本典裕・制度研『学校から見える子どもの貧困』（大月書店、2009年）			
学生に対する評価 期末テスト50%、授業内レポート50%			

授業科目名： 教育と社会	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 樋口太郎
			担当形態：単独
科目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育という事象を、哲学、社会学、歴史学などの周辺領域の知見も踏まえつつ多角的に捉えることで、（学校）教育を当たり前のものとする社会を一步引いて見つめることができるようになること。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>講義内容は、理論・歴史編とテーマ編の2つの柱より成る。理論・歴史編（第2 - 8回）では、教育という営みを歴史的に相対化し、教育を社会との関係において理論的に把握するための基礎を培う。テーマ編（第9 - 14回）では、教育と社会をめぐる諸問題に、これまでの授業内容をふまえながら迫っていく。最後に、全体のまとめをおこなう（第15回）。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：講義概要や計画、成績評価基準の説明、講義目的の解説</p> <p>第2回：これは「教育」ですか？</p> <p>第3回：教育の語源学①——東洋・西洋編</p> <p>第4回：教育の語源学②——日本編</p> <p>第5回：教育の思想史①——古代編</p> <p>第6回：教育の思想史②——中世編</p> <p>第7回：教育の思想史③——近代編</p> <p>第8回：教育の思想史④——19・20世紀編</p> <p>第9回：「学校」について考える</p> <p>第10回：「いじめ」について考える</p> <p>第11回：「大学」について考える</p> <p>第12回：「子ども」について考える</p> <p>第13回：「能力」について考える</p> <p>第14回：「社会」について考える</p> <p>第15回：改めて「教育」とは何かを問う（まとめ）</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			

参考書・参考資料等

木村元『学校の戦後史』岩波新書、2015年。

中村高康『暴走する能力主義』ちくま新書、2018年。

松岡亮二『教育格差』ちくま新書、2019年。

本田由紀『教育は何を評価してきたのか』岩波新書、2020年。 など

学生に対する評価

レポート課題（40%×2回）、ワークシート課題（10%×2回）

授業科目名： 教育・学校心理学	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 坪田 祐季
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校カウンセリングについて、理論的に説明できる。 ・ 児童生徒が抱える心理的課題について、多面的な視点から理解し、心理職としてどのように対応するか説明できる。 ・ 家族支援の在り方、多職種との連携の必要性について説明できる。 ・ 学校における具体的な心理援助のアプローチについて説明できる。 <p>テーマ：</p> <p>学校カウンセリング 教育心理学 スクールカウンセラー 多職種連携</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校現場における学校カウンセリングや教育心理学の基本概念、学校現場における様々な課題を理解し、「個」と「集団」に対する具体的なアプローチのあり方を学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学校における子どもの現状</p> <p>第2回：子どもの発達</p> <p>第3回：子どもを取り巻く環境</p> <p>第4回：スクールカウンセラーの役割と援助の実際</p> <p>第5回：チーム学校と多職種連携</p> <p>第6回：3段階の援助サービス</p> <p>第7回：学校現場における発達障害への対応</p> <p>第8回：学校現場における不登校対応</p> <p>第9回：学校現場におけるいじめ</p> <p>第10回：学校現場における非行</p> <p>第11回：緊急支援と危機対応</p> <p>第12回：学級づくりへの援助</p> <p>第13回：学校づくりへの関与</p> <p>第14回：地域連携</p> <p>第15回：授業全体の振り返り</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p>			

公認心理師の基礎と実践18巻 教育・学校心理学 石隈利紀編 遠見書房

参考書・参考資料等

ワークで学ぶ学校カウンセリング 竹尾和子 井藤元編 ナカニシヤ出版

体験型ワークで学ぶ教育相談 小野田正利 藤川信夫監修 大前玲子編 大阪大学出版会

その他、必要に応じて適宜紹介します。

学生に対する評価

期末試験50%、振り返りレポート40%、平常点10%で総合的に評価する。

授業のはじめに前回の課題や振り返りレポートについてフィードバックを行う。

授業科目名： 道徳教育の理論と実践	教員の免許状取得のための 必修科目 / 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉川 俊二 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目/大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分	道徳の理論及び指導法		
授業の到達目標及びテーマ 学校教育における「道徳」の内容と指導法に関する基礎的事項を修得し、子どもたちに自主的な判断力・価値観を育てる授業ができるようになる。			
授業の概要 道徳教育の目標を「個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成」（教育基本法）に基づき、子どもの人格の形成を目指すこととする。そのために、① 現在子どもたちがおかれている状況 ② 学校教育の現状と課題 ③ 道徳教育の基本的観点と背景 ④ 学校教育における道徳教育が果たすべき役割 ⑤ 道徳教育の具体的展開 などの点を明らかにしながら進めていく。その際、道徳教育を他の教育活動と同じく、学校教育全体を通じて行うものと位置づけ、子どもたちがおくる社会生活全般を視野に入れた展開としたい。			
授業計画 第1回 オリエンテーション 第2回 道徳性の発達理論、道徳教育と教育課程・評価 第3回 道徳教育の歴史（1）戦前 第4回 道徳教育の歴史（2）戦後 第5回 学習指導要領（道徳）について ① 家族 第6回 " ② 集団・社会 第7回 " ③ 国際理解 多文化共生 第8回 " ④ 勤労（労働） 第9回 道徳教育と情報モラル 第10回 道徳教育と主権者教育 第11回 道徳教育と特別活動 第12回 指導案の作成 第13回 模擬授業 ① 第14回 模擬授業 ② 第15回 まとめ			

テキスト

毎回の講義のテーマに関するレジюмеや映像資料・実践報告（生徒作文等を含む）・新聞情報・論考などの資料を用意する。

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領（平成29年告示文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年告示文部科学省）

学生に対する評価

期末レポート、授業への取組み状況、毎時間ごとのレポート（コメント）の提出と内容などによる総合評価とする。

授業科目名：現代と教育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 保田 その 担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>現在の教育の動向について、経緯や背景を理解したうえで、様々な方向から考え、論じることができるようになることを目的としている。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>制度的な側面、政策の動向、統計データ、歴史的な経緯、マスコミによる報道の状況など、多角的な観点からの考察を行う。</p> <p>扱う問題は、学校教育の制度、内容、生徒指導に関するもの、家庭や地域社会との関連に関するもの、学校教育と社会との関連に関するものなど多岐にわたる。その時期に話題になったことを中心に取り上げる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育の理念と歴史：教育史を踏まえて学校にみんなが通うことが当たり前の時代を見直す。</p> <p>第2回：公教育の制度と仕組み 重要な法規および文部科学省、教育委員会などの制度を学ぶ。</p> <p>第3回：教育課程（学習指導要領の変遷と現在）：学校で学ぶ内容が、どのように定められているか、歴史的背景を中心に知る。現行学習指導要領で重視される「主体的・対話的で深い学び」についても考える。</p> <p>第4回：学力とは何か。教育における評価と選抜：学力観の変遷、評価の基準、絶対的評価と相対的評価、入学試験における公平性とはなにか、といったことについて検討する。</p> <p>第5回：学校における教科外の活動（特別活動と課外活動）：学校生活のなかで重要な位置を占める特別活動や、教育課程外の活動でありながら、多くの学生にとっては学校生活の中心である「部活動」について歴史、制度、様々な見方などを検討する。</p> <p>第6回：生徒指導について（体罰と校則を中心に）校則の根拠、文部科学省などの見解を理解したうえで、生徒指導のあり方について考える。さらに学校教育法や文部科学省通知における体罰の禁止を理解し、体罰問題の歴史的経緯を知る。</p> <p>第7回：学級経営 と いじめ問題：「学級」の制度としくみについて学習したうえで、この学級の人間関係に起因することの多い「いじめ」問題について考える。歴史的経緯を踏まえ、文部科学省のいじめ対策、いじめ防止対策推進法などを理解する。</p> <p>第8回：義務教育制度と不登校問題 義務教育の制度について法令を理解し、歴史的経緯を踏まえて、現代の文部科学省の不登校に対する方針を知る、さらにフリースクールや特例校などの制度と問題点についても理解する</p>			

第9回：学校における安全 学校管理下での事件や事故，さらには子どもたちを取り巻く危険としてはどのようなものがあるのか，エビデンスを踏まえた理解の必要性について学ぶ。

第10回：教育費負担と教育機会：教育機会の格差に関する統計データを踏まえたうえで，奨学金、高等教育費の無償化政策、幼児教育の無償化などについての動向を知るとともに、背景にある世論についても考える。

第11回：家庭環境、家庭教育と学校：近年，家庭教育の重要性が指摘され，文部科学省は「家庭教育支援」の取り組みを行っている。他方，児童虐待や子供の貧困なども深刻であり，学校はこれらの対策も求められる。歴史や統計データを踏まえてこれらの動向について考える。

第12回：学校教育とジェンダー：日本は世界的にみてジェンダー・ギャップ（男女格差）が大きいことが知られている。一見「男女平等」が実現されているように見える学校教育が，ジェンダー・ギャップを増幅させている側面，性別で区切られることに違和感を持つ児童生徒にとって，学校がづらい環境になりうる側面などについて理解を深める。

第13回：地域社会と学校 新学習指導要領では「社会に開かれた教育課程」の実現を重視しており，組織的・継続的に地域と学校が連携・協働することが求められる。他方，教育機会の地域間格差，過疎化による学校統廃合など地域社会と学校との関連について多方面から考える。

第14回：職業と教育、学歴の意味：学歴と職業に関する統計データを踏まえたうえで，教育の職業的意義に関する研究動向，学歴社会の説明理論などを紹介しながら考える。

第15回：これからの学校教育と社会 これまでに十分扱うことのできなかつたテーマや，提出されたミニレポートを踏まえた補足を行う。

テキスト

テキストは指定せず，毎回配布資料を用意する。

参考書・参考資料等

『日本の公教育：学力・コスト・民主主義』中澤渉著 東京：中央公論新社，2018.3

『暴走する能力主義：教育と現代社会の病理』中村高康著 東京：筑摩書房，2018.6

『教育格差：階層・地域・学歴』松岡亮二著 筑摩書房，2019.7

『アクティブラーニング—学校教育の理想と現実』小針誠：講談社，2018.3

このほか教育問題について扱った本（主に新書版のもの）を紹介する。

学生に対する評価

e-Learning による小レポート成績:55%（計13回程度、記述式の小レポートを課し、2週間程度で評価する。）e-Learning による小テスト成績:30%（計5回程度、自動採点式小テストを課す。）授業への参加:15%（出席，発言，ディスカッションなど）

授業科目名：障害者・ 障害児心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：川合裕子 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「障害」について学び、心理社会的課題及び必要な支援について理解し、共生社会の実現に向けてどのようにサポートしていけば良いかについて、心理学的視点から受講生と共に考え、受講生自身が言葉にできることを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「障害者」の心理社会的課題、取り巻く社会状況についての知識を習得し、問題意識を自分の言葉で述べることができる。 ・特に「精神障害」「発達障害」に焦点を当て、どのような「障害」であるかを理解し、その暮らしを実感できる。 ・「障害」のある、ないに関わらず、共に暮らすあり方について、何ができるか、何をすべきかなどの自分の考えを言葉にして説明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>「障害」について学び、受講者自身が考える時間と空間を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「身体障害」「知的障害」「発達障害」及び「精神障害」の概要を学ぶ。 ・「障害者」の心理社会的課題及び必要な支援の理解を深める。 ・「障害者」がよりよく生きること、同時に受講者自身を含めたすべての人々がよりよく生きることについて考えるための話し合いを行う。 ・問題に遭遇した際に自ら取り組む姿勢を持つことができるように、グループでの研究発表を通して、能動的に問題の理解を深めるために調査研究を行い、獲得した知識を自分の言葉を使って説明する試みを行う。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、「障害」という言葉について</p> <p>第2回：「障害」の種別、定義</p> <p>第3回：「障害」への関わりの変遷、ICFの障害の概念</p> <p>第4回：「精神障害」の概要、対応の変遷</p> <p>第5回：「障害」と心の働き</p> <p>第6回：「発達障害」の理解、「障害者」と呼ばれる本人の気持ちと支援</p> <p>第7回：「障害者」と呼ばれる人々の家族の気持ちと支援</p> <p>第8回：「障害を受容する」とは？</p> <p>第9回：「障害者」と呼ばれる人々の取り組み</p>			

第10回：社会参加と合理的配慮、就労にまつわること
第11回：地域で共に暮らすあり方について
第12回：研究発表に向けての準備（グループ及びテーマ決め、調査）
第13回：研究発表に向けての準備（テーマに沿っての調査、グループでの話し合い、まとめ）
第14回：研究発表
第15回：全体の振り返り
定期試験

テキスト

授業中に資料を配布する。

参考書・参考資料等

パメラ・バートラム『特別なニーズを持つ子どもを理解する』平井正三・武藤誠監訳 岩崎
学術出版社

その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

平常点40%（課題や発言などに取り組む姿勢を評価）、授業中の小レポート20%（課題で理解度を評価）、学期末試験40%（選択及び記述式の設問により知識の定着を評価）

授業科目名： 日本の憲法	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤澤宏樹
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>日本国憲法の諸規定を理解し、体系的に把握できるようになる。憲法上の論点について、感想を述べるだけでなく法的な視点から論じられるようになる。</p> <p>【キーワード】 憲法・基本的人権・統治機構</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日本国憲法を学習するにあたっては、基本的人権の領域と統治機構の領域にわけて学習するのが便利である。本講義でもこの枠組を用い、憲法の保障する権利と統治機構のあり方を検討することとしたい。</p> <p>講義にあたっては、判例を取り上げ、憲法上の論点について考察するという方法をとる。その際、訴訟当事者の生活実態を詳細にたどっていくことを心がけたい。憲法は生活と密接に関わるものだからである。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 イン트로ダクション（憲法とは何か・日本国憲法の制定過程 講義対象である憲法という語の定義を行い、そのうえで日本国憲法の制定過程に触れる。</p> <p>第2回 生命、自由および幸福追求権 憲法13条の保障する権利について述べて、基本的人権の保障の意味を考える。</p> <p>第3回 法の下での平等 様々な判例の検討を通じて、「法の下での平等」について考える。</p> <p>第4回 精神的自由権（1）内心の自由 ピアノ伴奏訴訟を考えることにより、内心の自由を保障するとはどういうことかを検討する。</p> <p>第5回 精神的自由権（2）表現の自由 表現の自由の意義と限界を考える。わいせつ表現・ヘイトスピーチなどを取り上げる。</p> <p>第6回 精神的自由権（3）信教の自由 宗教とは何か、信教の自由の意義と限界を考える。</p> <p>第7回 経済的自由権 公衆浴場の距離規制問題から経済的自由がどのような権利なのかを考える。</p> <p>第8回 社会権（1）生存権 国家が介入することによってはじめて実現する権利である社会権について考える。生活保護関連訴訟を取り上げる。</p> <p>第9回 社会権（2）教育を受ける権利と国家の義務 教育を受ける権利が脅かされている。低所得世帯の子どもの進学問題を通じて、教育を受ける権利と国家の義務について考える。</p>			

第10回 人身の自由・死刑制度 死刑廃止は国際的潮流なのに、なぜ日本で死刑制度が廃止されないのか。人身の自由と関連させて考える。

第11回 国会と選挙制度 国会の仕組みをおさらいし、選挙制度と関連づけて両議院のあり方を示す。

第12回 内閣 内閣制度とは何なのか。そして他国はどのような仕組みを有しているのか。外国と比較しながら検討する。

第13回 裁判所 裁判所の仕組みをまとめたうえで、日本の司法制度の問題を考えてみる。

第14回 地方自治 「地方自治は民主主義の学校」という有名な言葉がある。これはどういうことなのか。地方自治の仕組みを探る。

第15回 憲法とは何か ふたたび これまでの講義を踏まえて「憲法とは何か」をもう一度考える。

定期試験

テキスト

上田健介・尾形健・片桐直人『憲法判例50！（第2版）』（有斐閣、2020年）

『ポケット六法2022』有斐閣

六法は市販されているものであれば何でもいいが、必ず最新版を用意すること。

参考書・参考資料等

芦部信喜著（高橋和之補訂）『憲法（第七版）』岩波書店

学生に対する評価

平常点（授業時間内のレポートなど）：50%

期末試験：50%

授業科目名： スポーツ方法学	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山本辰生、禿慧二、平井博志 西里喜光、河鱒一彦、黒田雄 司、橋爪裕
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「体育」「スポーツ」の違いをしっかりと理解し「スポーツ」による健康維持増進・人間関係構築を目指す。「人間の健康」「体力の保持・増進」は「スポーツ」そのものを行う過程において生じてくるものだと思います。この授業では、スポーツで技術の向上・ルール・マナーの習得、体力の保持・増進、チームワーク・コミュニケーションを育むことをねらいとします。また、実技のなかでは「人と人」との関わり合いを大切にしていきます。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>スポーツ種目の理論と実践を中心に展開していく。</p> <p>本授業では、誰でも手軽に参加できる種目を扱うことで、より健康的な身体づくりを行い、身体を動かすことの「楽しさ」を実践する。</p> <p>また、生涯にわたり豊かなライフスタイルを営むために、身体活動の必要性を理解し、運動を日常生活の中に取り入れる習慣を身につける能力を養うことを主眼に置いた授業を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回目 ガイダンス（導入、理論）</p> <p>第2回目 体力測定</p> <p>第3回目 種目の歴史的な背景</p> <p>第4回目 用具の発達</p> <p>第5回目 種目のルール</p> <p>第6回目 種目のマナー</p> <p>第7回目 種目に必要な技術の説明① 基礎的技術</p> <p>第8回目 種目に必要な技術の説明② 発展的技術</p> <p>第9回目 種目のゲームに用いられる戦術の説明</p> <p>第10回目 生涯スポーツに向けて① 理論と実際</p> <p>第11回目 生涯スポーツに向けて② 運動技術の習得</p> <p>第12回目 生涯スポーツに向けて③ ゲームの実践</p>			

第13回目 生涯スポーツに向けて④ ゲームの発展

第14回目 実技試験と試験内容の解説

第15回目 まとめ

テキスト

必要に応じて配布する。

参考書・参考資料等

小倉伸一編著「スポーツ用語辞典（改訂版）」三修社 2011年7月

学生に対する評価

実技点:50%

平常点:50%（スポーツの意義を理解し実施できているか、授業への参加状況・受講姿勢を総合的に評価する。）

授業科目名： レクリエーション方 法学	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田島良輝、積山敬経、若吉浩 二、山下伸一、田原卓哉、野 村国彦、三宅孝昭、橋爪裕																																																
			担当形態： クラス分け・単独																																																
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目																																																		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育																																																		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>健康を維持増進するためには、身体活動量の維持・増加が非常に重要である。また、身体活動量を多くするためにレクリエーションの要素が必要不可欠である。ルールおよび技術の習得を目指す。</p>																																																			
<p>授業の概要</p> <p>レクリエーションスポーツの技術的および戦術的理論の解説と実践を中心に展開していく。</p> <p>人生を豊かなものにする上でスポーツは重要な意味を持っている。スポーツを楽しむためにも各種目の基本的技術な戦術的理論を学び上達することが重要となる。また、多くの仲間と一緒にスポーツを楽しむためにはルールあるいはマナーを身につける必要がある。こうした基本を学習しながら生涯スポーツを実践する姿勢を身につけることに主眼を置いて授業を行う。</p>																																																			
<p>授業計画</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%;">第1回目</td> <td style="width: 35%;">導入と理論</td> <td style="width: 35%;">講義概要と計画</td> <td style="width: 15%;"></td> </tr> <tr> <td>第2回目</td> <td>体力測定</td> <td>敏捷性から持久力まで種々の体力要素について現状を知る</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第3回目</td> <td colspan="3">スポーツ種目の歴史的な背景</td> </tr> <tr> <td>第4回目</td> <td colspan="3">用具の発達とゲームの変化</td> </tr> <tr> <td>第5回目</td> <td colspan="3">ルールの変遷とゲームの変化</td> </tr> <tr> <td>第6回目</td> <td>スポーツ種目に必要な技術の説明①</td> <td>基本的技術</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第7回目</td> <td>スポーツ種目に必要な技術の説明②</td> <td>発展的技術</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第8回目</td> <td>スポーツ種目に必要な戦術の説明①</td> <td>基本的技術・個人戦術</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9回目</td> <td>スポーツ種目に必要な戦術の説明②</td> <td>発展的戦術・チーム戦術</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第10回目</td> <td>生涯レクリエーションに向けて①</td> <td>理論と実際</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回目</td> <td>生涯レクリエーションに向けて②</td> <td>運動技術の習得</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12回目</td> <td>生涯レクリエーションに向けて③</td> <td>戦術の習得</td> <td></td> </tr> </table>				第1回目	導入と理論	講義概要と計画		第2回目	体力測定	敏捷性から持久力まで種々の体力要素について現状を知る		第3回目	スポーツ種目の歴史的な背景			第4回目	用具の発達とゲームの変化			第5回目	ルールの変遷とゲームの変化			第6回目	スポーツ種目に必要な技術の説明①	基本的技術		第7回目	スポーツ種目に必要な技術の説明②	発展的技術		第8回目	スポーツ種目に必要な戦術の説明①	基本的技術・個人戦術		第9回目	スポーツ種目に必要な戦術の説明②	発展的戦術・チーム戦術		第10回目	生涯レクリエーションに向けて①	理論と実際		第11回目	生涯レクリエーションに向けて②	運動技術の習得		第12回目	生涯レクリエーションに向けて③	戦術の習得	
第1回目	導入と理論	講義概要と計画																																																	
第2回目	体力測定	敏捷性から持久力まで種々の体力要素について現状を知る																																																	
第3回目	スポーツ種目の歴史的な背景																																																		
第4回目	用具の発達とゲームの変化																																																		
第5回目	ルールの変遷とゲームの変化																																																		
第6回目	スポーツ種目に必要な技術の説明①	基本的技術																																																	
第7回目	スポーツ種目に必要な技術の説明②	発展的技術																																																	
第8回目	スポーツ種目に必要な戦術の説明①	基本的技術・個人戦術																																																	
第9回目	スポーツ種目に必要な戦術の説明②	発展的戦術・チーム戦術																																																	
第10回目	生涯レクリエーションに向けて①	理論と実際																																																	
第11回目	生涯レクリエーションに向けて②	運動技術の習得																																																	
第12回目	生涯レクリエーションに向けて③	戦術の習得																																																	

第13回目	生涯レクリエーションに向けて④	ゲームの実践
第14回目	生涯レクリエーションに向けて⑤	ゲームの発展
第15回目	講義内容の確認と総括	ゲームの発展と振り返り

テキスト

必要に応じて配布する。

参考書・参考資料等

石井直方著「筋を鍛える：ヒトはトレーニングによってどう変わるのか？」講談社 2009年9月

学生に対する評価

授業への参加状況:50%

講義への取り組み姿勢:50%

【課題に対するフィードバック】

・適宜、各回個別にフィードバックする。

授業科目名： 英語 I a 【R&W】	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：日高文代、岩崎峰子、 笹平桂子、富岡紀子、中谷紘子、 三上由香、村上八重子、山口修、 吉田弘子、岩佐托朗、大野あずさ、 久保祐美子、武内正美、成富紀子、 疋田知美、平敷亮子、廣重尚実、 福田圭三、岩田雅彦、片山麻美子、 重光美恵、藤岡住恵、本村光江、 赤尾美和、市場史哉、澁谷みどり、 中川昭、日野上福枝、山野茂 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 英語Iaでは、平易なコミュニケーションを行うための基礎英語力を養成することを目的とし、英語をコミュニケーションの手段として運用するための語彙と文法の習熟を図る。また、英和辞典の使い方を学び、平易な英文から必要な情報を読み取ったり、内容を把握できるようにする。			
授業の概要 単語テストを行い、語彙習得の確認をする。 構文、文法事項の確認しながら、英文を精読する。 練習問題を解き、正しく英文を読めているか、内容を把握できているかを確認する。 発表の機会を多く設けて、積極的な参加を求める。			
授業計画 第1回 オリエンテーション 講義概要や計画、成績評価基準の説明、春学期多読プロジェクトの説明 第2回 Unit1 All About Food A Restaurant for Change Chapter1 第3回 Unit1 All About Food Let's make Blueberry Muffins! Chapter2 第4回 Unit2 Inventions Computer Beats Champions Chapter1 第5回 Unit2 Inventions The Most Useful Inventions Chapter 2			

第6回	Unit3 Studying Abroad	What to Study Abroad? Chapter1
第7回	前半学習の確認	Unit 1～3の復習を行い、理解を深める 到達度を確認する
第8回	Unit3 Studying Abroad	My Travel Journal Chapter2
第9回	Unit4 Money and Budgets	A Student Budget Chapter1
第10回	Unit4 Money and Budgets	My Money Chapter2
第11回	Unit5 Our Modern lifestyle	Cell Phone Etiquette Chapter1
第12回	Unit5 Our Modern lifestyle	Smartphone Apps for Travellers Chapter2
第13回	Unit6 The Olympics	The Olympic Flames Chapter1
第14回	Unit6 The Olympics	Unusual Olympic Sports Chapter2
第15回	講義内容の確認と総括	総復習を行い、理解を深める 到達度を確認する

テキスト

Active Skills for Reading 1 (センページ)

Value 1400 (数研出版)

参考書・参考資料等

ジーニアス英和辞典

プログレッシブ英和中辞典

リーダーズ英和中辞典

学生に対する評価

クラスワーク、課題:30% (発表、授業内タスク、提出物の内容を評価する)

小テスト:25% (テキストを中心とした復習テスト)

期末テスト:25% (テキストを中心とした復習テスト)

単語テスト:10% (『Value1400』より出題)

多読:10% (レポート、読解チェック)

授業科目名： 英語 I b [L & S]	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：カウエン、ステ ィーブンス、日野上福枝、ホ スバック、吉田由美子、ラン デル.N、岸田眞樹、グレコ ドゥデジアン、ファミュラロ ヘイル、マラン、ラーキング ライト、大森幸享、神原由紀 子、ボイル、松坂裕晃、ラン デル.T、井澤清、張又心、バー バラ、ブレズナハン、リオン 成田修司、日高文代 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 リスニングとスピーキング技能の習得に焦点をあて、コミュニケーション能力の向上を目指す。英語をコミュニケーションの手段として運用できるようシチュエーションに応じたフレーズを習得する。また、聞き取れた単語から内容を推測し、自分で英語を再生することで、正しい文法やコロケーションなどを身につける。			
授業の概要 テキストを使って基本を学び、ペア・グループワークを主体としたアクティブラーニングを通じて習ったことを様々な形でアウトプットすることで定着をはかる。 積極的な授業参加が必要。			
授業計画 第1回目 オリエンテーション 第2回目 Unit 1 Introductions 第3回目 Unit 2 Friends 第4回目 Unit 3 Hometown 第5回目 Unit 4 Weekend Activities 第6回目 Unit 5 Eating Out 第7回目 Unit 6 FreeTime Activities 第8回目 振り返り・中間テスト 第9回目 Unit 7 Sports			

第10回目	Unit 8 Health
第11回目	Unit 9 Transportation
第12回目	Unit 10 My Place
第13回目	Unit 11 Vacation Plans
第14回目	Unit 12 Travel
第15回目	まとめ・期末テスト

テキスト

『Taking Action』（金星堂）

その他適宜プリントを配布

参考書・参考資料等

ジーニアス英和辞典（大修館書店）

ウィズダム英和辞典（三省堂）

学生に対する評価

単語テスト:10%（ユニットごとに行う）

クラス内タスク:35%（毎回クラス内で出されるタスクを評価）

授業前後課題:15%（毎回授業の前後に提出する課題を評価）

中間テスト:20%（テキストを主体とした復習中心のテスト）

期末テスト:20%（テキストを主体とした復習中心のテスト）

授業科目名： フランス語 I a 【講読】	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：中所聖一 山口威、秋吉孝浩、大場千景
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>初級フランス語を、聞き、話し、読み、書くための、総合的な能力の育成を目指す。基本的な文法を学ぶことで、主として日常生活に即した会話文を身に付けていく。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>基本的には以下の教科書を用いて、適宜、補助的なプリントを配布してそれを参照したり、映像資料を視聴しながら、授業を行い、フランス語の習得を目指す。また同時に、授業内での小テストなどにおいて習得確認も行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 フランス語について 講義の説明とフランス語についての概略</p> <p>第2回 発音 フランス語の発音</p> <p>第3回 発音 フランス語の発音とつづり字の関係</p> <p>第4回 発音 フランス語の発音の確認</p> <p>第5回 不定冠詞・定冠詞 不定冠詞・定冠詞と名詞の性・数</p> <p>第6回 不定冠詞・定冠詞 不定冠詞・定冠詞と提示の表現</p> <p>第7回 不規則動詞etre 不規則動詞etreの理解</p> <p>第8回 不規則動詞etre 不規則動詞etreの使い方</p> <p>第9回 不規則動詞etre 不規則動詞etreの応用と否定形</p> <p>第10回 不規則動詞avoir 不規則動詞avoirの理解</p> <p>第11回 不規則動詞avoir 不規則動詞avoirの使い方と部分冠詞</p> <p>第12回 不規則動詞avoir 不規則動詞avoirの応用と否定形</p> <p>第13回 第一群規則動詞 第一群規則動詞の理解</p> <p>第14回 第一群規則動詞 第一群規則動詞の使い方と疑問文</p> <p>第15回 講義内容の確認と総括 これまでのすべての内容の確認</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>『新ケンとジュリー 1』（駿河台出版）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

授業内で適宜指示する。

学生に対する評価

学期末試験:50%

授業中に行う小テスト:50%

フィードバックは授業内に、あるいは必要に応じてKVCで行う。

授業科目名： フランス語 I b 【文法】	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 兼山美幸、久後貴行、秋吉孝浩
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>これまでに学習した様々な文法事項の復習と確認をしつつ、日常生活で用いられる基本的な語彙や表現を学んでいく。基本のなかの基本をしっかり身につけ、様々な練習を通してフランス語の基礎的なコミュニケーション力の習得を目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>指定するテキスト教材に沿って進めていく。音読練習、ペアやグループでの会話練習も積極的に取り入れていく。また映像を用いて、各課の場面の理解と状況把握に役立てるとともに、フランス文化も紹介していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 フランス語の音と文字 アルファベ、主な綴り字の読み方</p> <p>第2回 第1課：二人の出会い 主語人称代名詞、être の活用、国籍の言い方</p> <p>第3回 第2課：自己紹介をする 規則動詞の活用、形容詞の性・数の一致、名前の言い方</p> <p>第4回 第3課：好きなものを言う 母音で始まる動詞の活用、名詞の性・数と定冠詞、疑問文</p> <p>第5回 第4課：これは何ですか？ 疑問代名詞、不定冠詞と指示代名詞、形容詞の位置</p> <p>第6回 第5課：ここはどこ？ 否定文、疑問副詞 où、il y a の表現、量の表現</p> <p>第7回 第6課：年齢の話 avoir の活用、職業を表す名詞、疑問形容詞</p> <p>第8回 学期前半の復習とまとめ 到達度の確認と既習文法の総まとめ、練習問題</p> <p>第9回 第7課：日本料理店に行く 部分冠詞、冠詞のまとめ、定冠詞の縮約</p> <p>第10回 第8課：布団が好き 所有形容詞、人称代名詞の強勢形</p> <p>第11回 第9課：店で買い物をする 指示形容詞、指示代名詞、形容詞の比較級、疑問副詞 combien</p> <p>第12回 第10課：ジャパン・エキスポ 命令形、補語人称代名詞、中性代名詞</p> <p>第13回 第11課：天候の話 非人称構文、形容詞女性形の特殊な形</p> <p>第14回 学期全体の復習とまとめ (1) 既習文法の総まとめと練習問題</p> <p>第15回 学期全体の復習とまとめ (2) 到達度の確認と既習文法の総まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>『パリのクール・ジャパン』（朝日出版社）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

授業内で適宜指示する。

学生に対する評価

平常点:20% (受講態度、授業への参加度等を総合的に評価する。)

中間試験:40%

期末試験:40%

授業科目名： ドイツ語 I a 【講読】	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 志田章、畑一成、甲斐浩一 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>ドイツ語圏の日常生活において簡単な要件であればこなせる運用能力を身につけるため、ドイツ語を「話す」「聞く」「読む」「書く」トレーニングを行います。特に、ドイツ語を使って行動し、人と意思疎通することができるようになるため、コミュニケーション能力の養成に重点を置きます。</p> <p>【テーマ・キーワード】 ドイツ語、コミュニケーション、初級会話</p>			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者同士が助け合い・学び合うペアワークやグループワーク中心の授業を進める。 ・文法の説明を受けて、それを訓練する方法ではなく、まず言語使用を体験して、そこから言語の仕組みを予測・発見するアクティブラーニングの授業を行う。 ・教科書とは別途、文章やテキスト、小テスト等を適宜使用し、ドイツ語文法の理解度を促進し、チェックする。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回 講義概要の説明、つづり字と発音 講義の進め方を説明し、成績評価基準やドイツ語を学ぶことの意義を解説する。つづり字と</p> <p>第2回 Lektion1 Neu hier? ドイツ語のあいさつと自己紹介の表現を覚え、人称代名詞と動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第3回 Arbeitsbuch Lektion1で学んだあいさつや自分の好きなもの、疑問文を使った練習を行う。</p> <p>第4回 Magst du Tennis? 自分の好きなものを表現する仕方を学び、Wで始まる疑問文とその答え方を学ぶ。</p> <p>第5回 Arbeitsbuch Magst du Tennis? で学んだあいさつや自分の好きなもの、疑問文を使った復習を行う。</p> <p>第6回 Lektion2 Mein Kurs 学校生活に関する表現や友人を紹介する表現を学び、人称代名詞と動詞の変化をさらに学ぶ</p> <p>第7回 Arbeitsbuch Lektion2で学んだ、友人の紹介や数字を使った表現などを練習する。</p> <p>第8回 Lektion2 Zahlenspiele 数字を使った表現を学ぶ。机のまわりにあるものをドイ</p>			

ツ語で表現する。冠詞を学ぶ。

第9回 Arbeitsbuch Mein Kurs 2 Zahlenspieleで学んだ、友人の紹介や数字を使った表現などを練習する。

第10回 Lektion3 Lieblingstiere, Lieblingsdinge 動物や身の回りのものを表現しながら、名詞の格を学ぶ。

第11回 Arbeitsbuch Lieblingstiere, Lieblingsdinge 1 Lektion3で学んだ、動物や身の回り物に関する表現やインタビューなどを復習する。

第12回 Lektion3 Interview in der Klasse インタビューや報告の表現を学ぶ。持ち物や買っている動物について話す。

第13回 Arbeitsbuch Lieblingstiere, Lieblingsdinge 2 Interview in der Klasseで学んだ、動物や身の回り物に関する表現やインタビューなどを練習

第14回 Arbeitsbuch Kleine Pausel Lektion1~3で学んだ、好きなものの表現や数詞を復習する。

第15回 これまでの復習 春学期の授業で学んだ、自己紹介や学校生活、時間の表現等を復習する。

定期試験

テキスト

『プリマ・プラス』朝日出版社

参考書・参考資料等

授業内で適宜指示する。

学生に対する評価

学期末試験:50%（「到達目標」の記載内容を測る試験を行う）

授業への参加:50%（課題、小テスト、発表、ペアワーク、グループワーク等の参加度）

※授業への参加状況や態度によって減点する場合がある。

授業科目名： ドイツ語 I b 【文法】	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 亀井一、志田章、長縄寛、 甲斐浩一
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
授業は演習形式で行い、読む・書く・聞く・話す技能をバランスよくトレーニングする。出席者には、積極的に授業に参加することが求められる。かならず毎時間、口頭での発表（ミニ・ドイツ語会話）の義務が課せられる。ドイツ語が公用語として用いられているドイツ・オーストリア・スイスなど、いわゆるドイツ語圏の国々の生活や文化の特色と魅力についても学ぶ。			
到達目標			
初級ドイツ語の文法項目の前半部分を学習し、初級レベルの読み書き、会話ができる。			
授業の概要			
①以下に指定するテキスト			
②授業中に配布するプリント（自作）			
を中心に解説、演習を行う。			
授業計画			
第1回 講義概要の説明、アルファベットと発音 講義の進め方や成績評価基準を説明し、ドイツ語圏の国々や文化等について解説する。アルファベットと発音の規則を学ぶ。			
第2回 Lektion0 ドイツ語のあいさつ ドイツ語のあいさつ、数詞、季節、月、曜日、簡単なフレーズを学ぶ。			
第3回 Lektion1 人称代名詞・不定詞・定動詞 主語になる人称代名詞とそれに応じた動詞の変化を学ぶ。			
第4回 Lektion1 seinの現在人称変化 不規則な変化をするseinと否定表現を学ぶ。			
第5回 Lektion2 名詞の性と冠詞 名詞の性に合わせて冠詞が変わり、それらが格変化することを学ぶ。			
第6回 Lektion2 名詞の4格変化とhabenの現在人称変化 habenの人称変化を学びながら、名詞の4格変化を習得する。			
第7回 Lektion3 名詞の2・3格 名詞の2・3格の働きを学び、それらを使った表現を習得する。			
第8回 Lektion3 人称代名詞 人称代名詞の格変化を学び、3格・4格の語順を学ぶ。			
第9回 Lektion4 不規則動詞の現在人称変化 不規則に変化する動詞を覚え、変化の規則を学ぶ。			
第10回 Lektion4 命令形と否定表現のまとめ 人称に合わせた動詞の命令形を学び、様々な否定表現			

を習得する。

第11回 Lektion5 不定冠詞類 所有冠詞や否定冠詞を学ぶ。

第12回 Lektion5 定冠詞類 dieserやjener等の定冠詞類を学ぶ。

第13回 Lektion5 前置詞1 3格・4格支配の前置詞を学ぶ。

第14回 Lektion5 前置詞2 3・4格支配の前置詞と前置詞と冠詞の融合を学ぶ。

第15回 講義の復習 これまで学んだ表現や文法を復習する。

定期試験

テキスト

今井田亜弓、前田織絵『シュリット・フュア・シュリット』三訂版、三修社

参考書・参考資料等

授業内で適宜指示する。

学生に対する評価

平常点:40% (授業時間中毎回行われる小テスト。)

学期末試験:60%

授業科目名： 中国語 I a	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： トウ岩、桜木陽子、楊麗珍 浦元里花、桂小蘭、閻立 島田順子、和泉ひとみ 山内一恵、張衛
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>楽しく学びながら中国語の基礎が身につくことを目指す。</p> <p>主に学生に即した身近な語彙や会話を暗唱して、日常生活ですぐに使えることを目標にしている。</p> <p>内容①発音：発音の基礎を一通り学びます。繰り返し練習し、確実に身につける。</p> <p>②必要な文法事項をまとめ、基礎的な表現をマスターする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①中国語の発音（ピンイン）の特徴を理解し、正しい発音ができるようになること。基本的な中国語の文法を理解できるようになること。</p> <p>②中国語の基礎的事項の習得と、聞く・話す・読む・書く・訳すの5技能が身につくようになること。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教科書を中心に、解説する。</p> <p>講義の復習を確実にを行う。</p> <p>配布資料等で講義を進める。</p> <p>一方通行の講義ではなく、一人一人が発言できるようにする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス発音 講義計画、授業の進め方などの説明 声調、単母音、練習問題</p> <p>第2回 発音（2） ①子音表 ②有気音と無気音 ③そり舌音</p> <p>第3回 発音（3） 鼻音音</p> <p>第4回 発音（4） ①軽声 ②声調の変化</p> <p>第5回 発音小テスト 簡単な挨拶 挨拶用語</p> <p>第6回 第1課 1. 人称代名詞 2. 動詞述語文 3. 副詞「也」と「都」 4. 省略疑問</p> <p>第7回 第2課 1. 「是」の文 2. 疑問詞「谁（誰）」と「什么」 3. 所有・所属を示す「的」</p> <p>第8回 第2課 4. 名前の聞き方・言い方</p> <p>第9回 第3課 1. 指示代名詞 2. 所有を表す動詞「有」 3. 助数詞・数詞</p> <p>第10回 第4課 1. 形容詞述語文 2. 疑問詞「怎么样（様）」</p>			

第11回 第4課 3. 疑問詞「多少」と「几」 4. 助詞「想」と「要」

第12回 第5課 1. 日付、曜日の言い方 2. 時刻の言い方 3. 比較の表現

第13回 第6課 ①場所を表す代名詞 ②「存在」を表す動詞「在」 ③反復疑問文

第14回 まとめ ・発音およびコミュニケーションに関する復習

第15回 まとめ ・第1課から第6課までの復習

定期試験

テキスト

南雲智、趙暉「始めよう中国語」白水社、2005年1月1日

参考書・参考資料等

授業内で適宜指示する。

学生に対する評価

学期末試験:70%

小テスト、その他:30%

授業科目名： 中国語 I b	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 陳傑中、范紫江、陳薇、鄭萍 安力、胡金定、張衛、陳昭宜 谷力、パン新平
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>初級中国語を学ぶ学生を対象として、中国語の発音と基本文法を習得し、基礎的な中国語の運用能力の養成を目的とする。テキストの特色は、学生生活に密着したもので、活用度の高い内容である。中国語の基礎力を身に付けるように、聞く、話す、書く練習を行う。</p> <p>発音に重点を置く。中国語を正確に読めることを目指し、発音の徹底指導と訓練を行う。</p> <p>「聴く」「話す」を中心にしたコミュニケーション能力の養成</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ピンインをちゃんと読むことができる。 2. 漢字の正しい発音を覚える。 3. 基本的な文法事項が正しく理解でき、日常生活における会話能力を身に付けることを目標とする。 <p>社会とつながり、多様な人々と協働できる人間力</p>			
<p>授業の概要</p> <p>発音に重点を置く。中国語を正確に読めることを目指し、発音の徹底指導と訓練を行う。</p> <p>「聴く」「話す」を中心にしたコミュニケーション能力の養成</p> <p>1課 - 5課まで学習する。期末試験を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 中国語はどんな言葉。基本母音 発音（1） 基本的な挨拶表現</p> <p>第2回 発音（2） 複合母音、声調 基本的な挨拶表現</p> <p>第3回 発音（3） 子音、音節</p> <p>第4回 発音（4） 音節表、変調などの発音事項</p> <p>第5回 第1課「お名前は」 人称代名詞 名詞述語文</p> <p>第6回 第1課「お名前は」 第1課の復習、練習</p>			

第7回	第2課「これは何ですか」	指示代名詞 疑問詞疑問文
第8回	第2課「これは何ですか」	第2課の復習、練習
第9回	第3課「あなたはどこに行きますか」	動詞述語文 所有を表わす「有」
第10回	第3課「あなたはどこに行きますか」	第3課の復習、練習
第11回	第4課「このバックはいくらですか」	指示代名詞（2） 形容詞述語文
第12回	第4課「このバックはいくらですか」	第4課の復習、練習
第13回	第5課「あなたは夜用事がありますか」	数字 日付・時刻を表わす語
第14回	第5課「あなたは夜用事がありますか」	第5課の復習、練習
第15回	総合練習	1～5課を復習し、読む、書く練習する。
定期試験		

テキスト

『中国語はじめの一步』（白水社）伊 景春・竹島 毅 著

参考書・参考資料等

授業中に適宜指示する。

学生に対する評価

試験成績:70% (教科書の範囲内で総合的にチェックする。)

平常点 (授業課題など) :30% (学習態度、及び課題などで評価する。)

授業科目名： スペイン語 I a 【講読】	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 寺本あけみ、ヘラルド 寺尾江利子、河邊真次
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【テーマ】「スペイン語の運用力と文化能力を身につけよう」</p> <p>【キーワード】「見る、聞く、話す、書く、読む」</p> <p>【到達目標について】</p> <p>まずアルファベットから動詞の活用（現在）を理解するため、教科書第7課までを到達目標とします。また授業内容を確実に理解できれば、スペイン語技能検定6級レベルまで到達することができます。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>スペイン語の初級レベル習得の要は動詞の活用です。従って本科目では「現在」の動詞活用をメインに授業を進めていきます。ただやみくもに活用を覚えるというのではなく、発音練習なども行いながら「使えるスペイン語」「日常生活に役立つスペイン語」の習得を目指します。また学習を重ねながら、購読、作文練習にもチャレンジしましょう。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 Lec.1 正しく発音できるようになる。 アルファベット、音節分け、アクセント</p> <p>第2回 挨拶できる。 映像「ホタの楽団」</p> <p>第3回 Lec.2 依頼することができる。 名詞、冠詞、主格人称代名詞</p> <p>第4回 カフェで注文、大学の事務所で依頼することができる。 所有形容詞、映像「サラマンカ」、Diálogo: Un café con leche por favor. La matrícula en Cursos Internacionales.</p> <p>第5回 Lec.3 タクシーで行き先を伝える。 形容詞、動詞ser直説法現在</p> <p>第6回 国籍、出身、身分を訪ねたり、伝えたりできる。 ser de +名詞の表現、否定文と疑問文、映像「サラマンカ大学」、Diálogo:¿De dónde es usted?</p> <p>第7回 Lec.4 ある特定の場所について尋ねる。 動詞estarの直説法現在、serやestarといっしょに使われる前置詞について</p> <p>第8回 「～はどこにありますか。」 指示代名詞と指示形容詞、映像「生ハム・腸詰工場」</p> <p>第9回 Lec.5 存在や所在、状態や性質を表すことができる。 hay、hayとestar、ser+形容詞、estar+形容詞</p>			

<p>第10回 「青色のファイルは誰のですか。」 時刻、時間、日付、映像「エルチェ、靴とヤシ」</p> <p>第11回 Les.6 現在のこと、習慣的な行為を表す。 直説法現在の規則動詞</p> <p>第12回 「私は文学部の学生です。」 疑問詞、疑問詞を用いた疑問文の作り方、映像「おつまみや肴」</p> <p>第13回 Les.7 休暇のプランについて語ることができる。 語根母音変化動詞の現在形</p> <p>第14回 「1週間、祖父母の田舎に帰るつもりです。」 目的格人称代名詞（直接・間接）、前置詞格人称代名詞、映像「アリカンテ、都市と祭り」</p> <p>第15回 講義内容の確認と総括（コミュニケーションを中心に）</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>『五感でめぐるスペイン語 ライト版』濱松法子 エンリケ・アルマラス・ロモ 安富雄平著（朝日出版社）</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『現代スペイン語辞典』白水社</p> <p>『新スペイン語辞典』研究社</p> <p>『プログレッシブ・スペイン語辞典』小学館</p> <p>『西和辞典』『和西辞典』『西和小辞典』白水社</p> <p>『ペンギン 現代スペイン語辞典』南雲堂フェニックス</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>課題・小テスト:50%（前回の課題や小テストについては授業の初めにフィードバックを行います。）</p> <p>学期末試験:50%</p>

授業科目名： スペイン語 I b 【文法】	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 寺尾美登里、加藤隆浩 高岡麻衣
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>スペイン語の基礎となるルールを学びながら挨拶、自己紹介、簡単な日常的な表現を学びます。また、スペイン語の文法的な語学学習だけでなく、スペイン語を話す国々の文化や習慣なども学習します。</p> <p>【テーマ・キーワード】 身近なスペイン語・スペイン文化</p> <p>【到達目標について】 スペイン語学習を通して何らかの形で人との繋がりが持てるようになることを目指します。学習した文法的内容の理解と学習したスペイン語を使って自分の言いたいことが表現できたり、話し相手に質問したりすることができるようになることを目標とします。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>指定するテキストを中心に身近な会話、文法事項を学び、聴解を含む練習問題を通して、理解を確認、強化します。その後運用能力を高めるために、会話例を再現したり、自分たちのことに置き換えて会話学習をします。最後に活動学習を取り入れてペアもしくはグループワーク学習（アクティブ・ラーニング）をします。また、自分のことをスペイン語で表現するミニ課題が毎回もしくは各課ごとにあります。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス 1 あいさつする 講義概要や授業計画、成績評価基準の説明、学習アドバイスの説明</p> <p>第2回 1 あいさつする自己紹介 挨拶表現—基礎、簡単な自己紹介</p> <p>第3回 2 食料品を買う 名詞について学ぶ</p> <p>第4回 2 食料品を買う 買い物場面のスペイン語</p> <p>第5回 3 人を紹介する 動詞serと形容詞</p> <p>第6回 3 人を紹介する 人物描写のスペイン語</p> <p>第7回 発展練習 1 スペイン語圏の文化に親しもう①食料、家族紹介</p> <p>第8回 4 仕事や勉強について話す 動詞について学ぶ①</p>			

- 第9回 4 仕事や勉強について話す バージョンアップ自己紹介
第10回 5 日常生活について話す 動詞について学ぶ②
第11回 5 日常生活について話す 1日の流れ、1週間の流れについて語る
第12回 発展練習2 スペイン語圏の文化に親しもう②料理、食習慣
第13回 6 自分の出身地について話す 動詞estar
第14回 6 自分の出身地について話す 自分の出身地や住んでいる場所について話す
第15回 まとめ 継続学習のための学習内容の理解確認と全体の振り返り

定期試験

テキスト

『アクション!』《ライト版》白水社

参考書・参考資料等

推薦辞書 『プログレッシブ スペイン語辞典〈第2版〉カレッジエディション』小学館

学生に対する評価

学期末課題（試験）:50%（【到達目標】の記載内容を測る記述、もしくは口頭試験を行います。）

平常課題:50%（毎回課題を出します。期日、指示を守って提出してください。）

授業科目名： 朝鮮語 I a	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 田星姫, 崔孝先
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>初めて韓国語を学習する人のための入門クラス。</p> <p>初めにハングル文字の読み・書きを身につける。テキストに沿って16課まで学習する。ハムニダ体の名詞文とその否定、ハムニダ体用言文、疑問詞の使い方、数詞、基本的な助詞などを学ぶ。あいさつ表現、自己紹介、飲食店での注文など、生活に必要な表現を習得する。</p> <p>発音の反復練習、文法事項の説明、練習問題、小テストを通して各課の目標が達成できるよう心掛けたい。韓国語の音やリズムを身につけるよう、常に発音を重視する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ハングル文字が書け、音読できる。 2. 辞書が引ける。 3. 自己紹介ができる。 4. あいさつ表現、決まり文句が話せる。 5. 数字を聴き取り、買い物ができる。 6. 基本文型を含んだ短い文が読め、書ける。 			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストと配布教材を中心に進める。 ・教師の説明、学生の発表（練習問題の答など）、学生同士の意見交換（隣の人との韓国語で役割練習）を組み合わせる。 ・となりの人と韓国語で役割練習をする。 ・CDを使って聴き取りをする。 ・会話、練習問題（パターンプラクティス）、発音（ミム・メモ練習）を反復する。 ・毎週小テストを実施する（ペーパーテスト、またはMicrosoft Office Formsにて）。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回 ハングルとは基本母音</p> <p>第2回 子音1（平音）</p> <p>第3回 パッチム1</p> <p>第4回 子音2（激音）子音3（濃音）</p> <p>第5回 複合母音</p>			

第6回 ハッチム2 発音の法則
第7回 ～は～です
第8回 ～ではありません
第9回 ある・ない (存在詞)
第10回 疑問詞
第11回 数詞1
第12回 数詞2
第13回 ～です・ます (ハムニダ体)
第14回 基本助詞
第15回 まとめ 春学期の復習
定期試験

テキスト

聴いて覚える初級朝鮮語 (白水社)

参考書・参考資料等

「TOPIK (韓国語能力試験) I」過去問題

「ハングル検定能力試験5級」過去問題

学生に対する評価

小テスト:40% (授業内容に対する理解度・習得度)

課題:10% (「読む・書く・話す・聴く」の4技能の習得状況)

期末試験:40% (辞書など持ち込みなし)

授業への自主的取り組み:10% (予習・復習・受講態度)

授業科目名： 朝鮮語 I b	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 松田由美子、李裕淑 金美華
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>韓国語の基礎を学習する。ハングル文字の構造と発音、韓国語の基礎文法と日常会話を学ぶ。文字を学ぶことによって身の回りで目にするハングルが読めるようになり、日本語と文の構造が似ているため単語が分かれば文の大体の意味が分かるようになる。また、基本単語に加え、助詞や文末語尾の使い方を学ぶ。</p> <p>テキストを使用し、講義と演習、小テストを通して「読む・書く・話す・聞く」力がつくように、上達を実感しながら進めていく。【テーマ・キーワード】</p> <p>韓国語の文字と発音・基本文法</p> <p>【到達目標について】文字の読み書きが出来、簡単な文を組み立て表現することが出来るまでを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>テキストを使用し、講義と演習、小テストを通して「読む・書く・話す・聞く」力がつくように、上達を実感しながら進めていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 Lesson1 韓国語のしくみ・子音字と母音字<1></p> <p>第2回 Lesson2 子音字と母音字<2></p> <p>第3回 Lesson3 子音字と母音字<3> 激音・二重母音字</p> <p>第4回 Lesson4 パッチム</p> <p>第5回 Lesson5 自己紹介</p> <p>第6回 Lesson6 指定詞</p> <p>第7回 実践会話 1 「はじめまして」</p> <p>第8回 Lesson7 指定詞(否定)</p> <p>第9回 Lesson8 漢数詞</p> <p>第10回 Lesson9 存在詞・位置名詞</p> <p>第11回 Lesson10 へヨ体基本形</p> <p>第12回 Lesson11 へヨ体縮約形<1></p> <p>第13回 Lesson12 へヨ体縮約形<2></p>			

第14回 実践会話2 「これ、いくらですか」 第15回 まとめと復習 到達度確認 定期試験
テキスト 『サクサクっと韓国語 改訂版』金美華（白帝社）
参考書・参考資料等 授業内で適宜指示する。
学生に対する評価 小テスト:30% 課題・発表:20% 学期末試験:50% 小テスト課題は随時フィードバックを行う。発表・試験についての詳細は授業時に解説する。

授業科目名： データ処理基礎	教員の免許状取得のための 必修科目/選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 五十嵐直子
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>授業のテーマ：Excelの基礎やデータサイエンスリテラシーを学ぶ。</p> <p>到達目標：表計算ソフト（Microsoft Excel）による経済データの処理、グラフ作成、初等的な統計の計算を行う技術を身に付ける。またデータ化社会の倫理性について学ぶ。</p>			
授業の概要			
<p>経済学部で必要なデータ処理能力を、実習により身に付ける。毎回、1人1台割り当てられたコンピュータを使用して、実習課題に取り組む。</p>			
授業計画			
第1回：データサイエンスとは（本講義の目的と概要）			
本講義の目的とデータと社会のつながりについて説明します。			
第2回：Excel（基礎知識）			
Excelの起動、シートの挿入、画面構成等について説明します。			
第3回：Excel（基本操作）			
ブックの保存、検索・置換等について説明します。			
第4回：Excel（セルの書式設定）			
セル内の書式設定やコピー&ペースト、オートフィル、挿入・削除等について説明します。			
第5回：Excel（表示形式）			
小数点、パーセント、日付等の入力について説明します。			
第6回：Excel（セルの参照）			
セルの相対参照、絶対参照、複合参照等について説明します。			
第7回：Excel（関数の入力）			
関数の使用（SUM、AVERAGE、COUNT、IF）について説明します。			
第8回：Excel（テーブルの作成）			
セルの範囲からテーブルを作成します。			
第9回：Excel（グラフの作成）			
円・折れ線グラフ・棒グラフの作成・書式設定を行います。			
第10回：Excel（詳細設定）			
ハイパーリンクの設定、プロパティについて説明します。			

第11回：データの倫理

データ化社会の倫理性について説明します。

第12回：データを知る①

データのタイプや特徴について説明します。

第13回：データを知る②

データの準備や整理の仕方について説明します。

第14回：データを読む

データを集計し可視化する方法について説明します。

第15回：復習

講義で学習した内容のまとめと復習をします。

テキスト

なし

参考書・参考資料等

『よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019』 出版社：FOM出版（富士通エフ・オー・エム）、発売日：2019/6/25、ISBN-13：978-4865103991

『絵と図でわかるデータサイエンス』 出版社：技術評論社、発売日：2021/5/21、ISBN-13：978-4297121273

学生に対する評価

授業への参加態度：40%

実習課題：60%

授業への参加態度と実習課題の成果で総合的に評価する。

授業科目名： 学校と教育の歴史	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高津芳則
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業の到達目標及びテーマ 日々の新聞が報道する教育問題を、歴史的かつ構造的に考える力を養う			
授業の概要 資本主義社会は、モラルを身につけた個人を前提にしている（アダム・スミス）。 資本主義社会における教育の役割を、封建社会との関係で考察する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 受講にあたっての諸注意（教育を歴史的に考える意味） 第2回：教育・学校と歴史観1（『昭和史』論争と歴史観） 第3回：教育・学校と歴史観2（脱亜論の歴史観） 第4回：教育・学校と歴史観3（唯物史観と学校） 第5回：日本における学校の誕生1（幕末から明治維新） 第6回：日本における学校の誕生2（『学問のすすめ』と学制） 第7回：日本における学校の誕生3（教学聖旨・教育議論争） 第8回：教育勅語 第9回：森文政期における学校体系 第10回：学校行事と国旗・国歌 第11回：学習指導要領における国旗・国歌 第12回：国旗・国歌と学校をめぐる諸問題 第13回：国定教科書制度の歴史 第14回：国家による教育統制と戦争 第15回：戦争責任と教育問題			
テキスト ・佐藤広美他『21世紀の教育をひらく—日本近現代教育史に学ぶ』緑陰書房2003年			
参考書・参考資料等 授業中適宜指示する。			
学生に対する評価 レポートによる			

授業科目名： 教育学入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 樋口太郎
			担当形態： 単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目等		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①「教育とは何か」という問いについて、授業内容を踏まえつつ、自身の考えを形成すること。</p> <p>②「学校で何を学ぶのか」という問いについて、授業内容を踏まえつつ、自身の考えを形成すること。</p>			
授業の概要			
前半は、「教育とは何か？」という問いを持ちながら、教育を対象化して捉えることを目指す。後半は、「学校で何を学ぶのか？」という問いのもと、戦後教育史の全体像をつかむ作業をおこなう。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：教育実践の事例をもとに教育について考える①—小学校			
第3回：教育実践の事例をもとに教育について考える②—中学校・高等学校			
第4回：教育という言葉はどのように使われてきたのか—〈教育〉の語源学			
第5回：教育を行う場としての学校はどのように成立したのか①—教育の考古学（西洋編）			
第6回：教育を行う場としての学校はどのように成立したのか②—教育の考古学（日本編）			
第7回：教育はどのような営みとして捉えられてきたのか—教育の目的論の変遷			
第8回：戦後教育史を読む（導入）			
第9回：戦後教育史を読む①—1950年代まで			
第10回：戦後教育史を読む②—1970年代まで			
第11回：戦後教育史を読む③—1990年代まで			
第12回：戦後教育史を読む④—人間形成の全体像			
第13回：戦後教育史を読む⑤—教育に関わる時期区分論			
第14回：戦後教育史を読む⑥—2008・2017年版学習指導要領			
第15回：教育学入門の総括			
定期試験			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			

授業中に適宜資料を配布する。

参考文献は以下の通り。

木村元『学校の戦後史』岩波新書、2015年。

小針誠『アクティブラーニング』講談社現代新書、2018年。

中村高康『暴走する能力主義』ちくま新書、2018年。

広田照幸『日本人のしつけは衰退したか』講談社現代新書、1999年。

本田由紀『教育は何を評価してきたのか』岩波新書、2020年。

松岡亮二『教育格差』ちくま新書、2019年。

学生に対する評価

定期試験（論述問題。持ち込み不可）の点数による。

授業科目名： 教職概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中西 修一郎
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公教育の担い手としての教員の特徴と社会的意義、およびそのために求められる職務内容や サービス・身分上の義務を把握する ・ 内外の専門家との連携・分担など、教職に求められるものを履行するために求められる資質 ・ 能力を理解する 			
授業の概要			
<p>この授業では、生徒としての参加してきたこれまでの学校経験を、教師という視点から見つめ直し、教師という職業の特性や必要な資質・能力、社会的意義や課題を把握してもらう。そのため、この授業には大きく3つの内容が含まれる。第1に「教職に関する基本的理解」である。教職の歴史や関係法規、労働のあり方など、教師という職業をめぐる基本的な知識や概念に関して知り、考えてもらう。第2に「教職の資質・能力」である。学習指導、生活指導、教育課程などの観点から、歴史的に蓄積された典型的な実践を読み考える中で、自らの経験を拡大してもらう。第3に、「教職に関する探究」である。教師という職業について、自分自身で考えていくため素地を養ってもらう。</p>			
授業計画			
第1回：教師とは何か？（教師像の共有、概論的なテーマの提示）			
第2回：教職に関する基本的理解①：教育の歴史と現在（教育改革運動、現在の教育改革の方向性）			
第3回：教職に関する基本的理解②：公教育の担い手（公教育とは何か、義務教育、学力保障）			
第4回：教職の資質・能力（学習指導）①：教材の研究者としての教師（教材研究、PCK）			
第5回：教職の資質・能力（学習指導）②：生徒の評価者としての教師（教育評価の意義）			
第6回：教職の資質・能力（学習指導）③：学習集団の指導（専門職としての教職像）			
第7回：教職に関する基本的理解③：教職の職業的特徴のサービス・身分上の義務及び身分保障（地方公務員法、政治的中立性、サービス・身分上の義務及び身分保障）			
第8回：教職に関する基本的理解④：仕事としての教師（教職の雇用、労務問題等）			
第9回：教職の資質・能力（生活指導）①：学級づくりにおける教師の役割			
第10回：教職の資質・能力（生活指導）②：生活の指導における教師の役割			
第11回：教職の資質・能力（教育課程）①：学校における「体験」の指導			
第12回：教職の資質・能力（教育課程）②：カリキュラムのマネジメント主体（チーム学校、教師の同僚性）			
第13回：教職の資質・能力（教育課程）③：総合学習における教員と生徒の関係性（探究者とし			

ての教師、探究の指導者としての教師、キャリア教育)

第14回：教職に関する探究（教職に関わるテーマを自分で設定し、調査したことをもとに意見交換を行う。学び続ける教師像）

第15回：教師とは何か？（これまでの講義を踏まえ、教職についての理解がいかに深まり、まだ何を知らないかを確認する。）

テキスト

授業内で適宜配布する。

参考書・参考資料等

秋田喜代美・佐藤学（編著）『新しい時代の教職入門』有斐閣アルマ

田中耕治（編著）『時代を拓いた教師たち』日本標準

田中耕治（編著）『時代を拓いた教師たちⅡ』日本標準

田中耕治編著『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房

学生に対する評価

学期末レポート：55%

一枚ポートフォリオ（15の小課題）：45%

授業科目名： 教育行政学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高津芳則
			担当形態： 単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び 学校安全への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 教育の諸問題を、各自の受けてきた教育の経験にもとづいて考察するの ではなく、教育法を学ぶことにより、多角的視点から考えられるようにすることを目標とする。			
授業の概要 憲法上、教育は国民の人権の一つであるとされている。しかし、子どもたちは人権の主 体になり得ていない現実がある。それはどうしてなのか、学生とともに考える授業にする。			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス（「法と教育」の概説）</p> <p>第2回：勅令主義教育体制</p> <p>第3回：憲法と旧教育基本法1（憲法の成立）</p> <p>第4回：憲法と旧教育基本法2（旧教育基本法の成立）</p> <p>第5回：世界の冷戦体制と教育</p> <p>第6回：安保条約と教育</p> <p>第7回：学力テスト問題と教育</p> <p>第8回：中教審46答申と競争の教育</p> <p>第9回：新自由主義と教育改革（学校運営協議会制度を中心に）</p> <p>第10回：教育基本法改正1（教育改革国民会議から中教審答申へ）</p> <p>第11回：教育基本法改正2（現行教育基本法の成立）</p> <p>第12回：教科書検定と家永教科書裁判</p> <p>第13回：家永教科書裁判と司法判断</p> <p>第14回：東京都・大阪府の教育改革</p> <p>第15回：子どもの権利と学校安全</p>			
テキスト 勝野・藤本編『教育行政学（改定新版）』学文社2015年			
参考書・参考資料等 『教育小六法』学陽社			
<p>学生に対する評価</p> <p>レポートによる</p>			

授業科目名： 教育心理学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 久保りつ子
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>(1) 発達および教育に関する基礎的知識を身に付ける。</p> <p>(2) それらの発達・教育に関する心理学の知見と実際の教育問題との関わりを理解し、その知見を応用した教育実践の方法について考えることができるようになる。</p>			
授業の概要			
<p>教育心理学とは、心理学的な立場から教育の問題について検討し、教育活動をより良く行うための知見や方法を提供する学問である。本授業ではまず教育の対象となる乳幼児期から青年期の発達の特徴を学び、学習や記憶のしくみ、学習意欲や動機づけなどの心理過程を考える。さらに、発達障害の特徴とその支援、教師による学級経営、学習指導、生活指導、評価についても学ぶ。受講する学生がこれまで受けてきた教育に関してディスカッションし、他者の意見と自分の意見を取りまとめ、教育実践での心理学的視点について学習する。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：教育心理学とは何か			
第2回：発達理論と教育			
第3回：発達と課題①：乳幼児期			
第4回：発達と課題②：学童期			
第5回：発達と課題③：思春期・青年期			
第6回：学習と記憶			
第7回：学習意欲と動機づけ			
第8回：発達障害①：自閉症スペクトラム障害			
第9回：発達障害②：注意欠如・多動性障害、学習障害			
第10回：学校・学級集団			
第11回：学習指導と教育評価			
第12回：教育現場の問題①：学力について			
第13回：教育現場の問題②：対人関係について			
第14回：チーム学校			

第15回：まとめ：教育心理学と教育実践の関わり

定期試験

テキスト

授業ごとに資料を配布する。参考文献はテーマごとに適宜紹介する。

参考書・参考資料等

「改訂版・実践につながる教育心理学」櫻井茂男監修 黒田祐二編著 北樹出版

「ベーシック現代心理学6 教育心理学[第3版]」子安増生 田中俊也 南風原朝和 伊東裕司著 有斐閣

学生に対する評価

授業参加態度30%、授業内課題20%、試験50%

授業科目名： 子どもの臨床心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 堀内 瞳
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業の到達目標及びテーマ 子どもの臨床心理学の基礎的な知識の習得と、人のこころ、及び自分自身のこころの理解を深めることを目指します。			
授業の概要 子どもは日々発達しており、様々な変化の中で生きています。 本講義では、子どもと親や家族との関係性というものが子どもにとってどのような意味を持つのかを考えていきます。そして、様々な領域での子どもの臨床と心理療法について学んでいきます。			
授業計画 第1回：イントロダクション・子どもの臨床心理学概要 第2回：家族（環境）について 第3回：子どもの発達 第4回：子どもの心の発達 第5回：学校現場における子どもの臨床①SC、学校臨床 第6回：学校現場における子どもの臨床②いじめ、不登校、発達障害 第7回：福祉領域における子どもの臨床①福祉の仕事 第8回：福祉領域における子どもの臨床②社会的養護、虐待・児童養護施設 第9回：医療現場における子どもの臨床①医療現場、心身症 第10回：医療現場における子どもの臨床②摂食障害、強迫性障害など 第11回：子どもの心理療法：心理療法とは 第12回：子どもの心理療法：プレイセラピー 第13回：子どもの心理療法：言語面接 第14回：親面接 第15回：子どもの臨床心理学の総括 定期試験			
テキスト 毎回講義資料を配布します。			
参考書・参考資料等 「子どものこころの発達を支えるもの アタッチメントと神経科学、そして精神分析の出会いとところ」 鶴飼奈津子監訳 誠信書房			
学生に対する評価			

授業への参加状況・授業態度(ミニレポート含む)40%、試験60%で総合的に評価します。

授業科目名： 特別支援教育概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石原 幸一
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業の到達目標及びテーマ 障害をもつ児童生徒の理解と特別支援教育の理念、システム、アセスメントと支援方法について理解できる。学校での具体的な場面を想定した支援や指導についての基礎的な力量を培う。			
授業の概要 視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱などの障がいや通常の学級にも在籍している発達障害などの様々な障害等、特別な教育的ニーズを持つ児童・生徒の理解と必要な支援及び支援方法について知り、校内の組織的な協力体制の下で個別の指導計画に基づいた個に応じた支援について理解する。また、障害者が置かれている現状について調べ、真の平等と共生社会について考える。講義での学びをふまえて教師になった立場で「障害理解教育」の構想をグループごとに発表する。			
授業計画 第1回：特別支援教育の理念 第2回：特別支援教育の仕組み 第3回：特別支援教育の対象 第4回：発達障害の子どもの理解 第5回：発達障害のある子どもに対する支援 第6回：知的障害のある子どもの理解 第7回：個別の指導計画と個別の教育支援計画 第8回：通級による指導 第9回：障害理解の推進について 第10回：特別支援学級の教育と対応 第11回：特別支援学校の教育と対応 第12回：家庭との連携 第13回：福祉との連携 第14回：障害のある子どもの教育の歩み 第15回：特別な教育的ニーズ 定期試験 あり			
テキスト			

相澤雅文ほか『テキスト 特別支援教育』クリエイツかもがわ ほかプリント

参考書・参考資料等

特別支援学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）、全国特別支援学級設置学校長協会 『「特別支援学級」と「通級による指導」ハンドブック』東洋館出版社、大塚玲『教員をめざすための特別支援教育入門』萌文書林、花熊暁・米田和子『通常の学級で行う特別支援教育 中学校 ユニバーサルデザインと合理的配慮でつくる授業と支援』明治図書ほか

学生に対する評価

平常点50%（授業態度、振り返り文、ミニレポート、小テスト） 定期テスト50%

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中西 修一郎
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義について、教育課程編成の基本原理および学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を含めて説明できるようになる。 ・教科・領域・学年をまたいで学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を具体的に説明できるようになる。 			
授業の概要			
<p>学校教育において何をいつどのように教え、学ぶのか。こうした問いに関わるのが教育課程(カリキュラム)である。本授業では、教育課程に関する基本的な概念や編成原理を理解したうえで、日本における教育課程の歴史の変遷や、教育課程編成と授業づくりの方法についての具体的な取り組みを検討していく。</p>			
授業計画			
第1回：学校経験と教育課程（自らの学校経験を教育課程の領域ごとに分類することを通じて、教育課程の概要を把握する。）			
第2回：教育課程とは何か①教育課程の定義・教育課程が社会で果たしている役割（教育課程の定義、教育課程の意図性・無意図性：ヒドゥン・カリキュラム）			
第3回：教育課程編成の基本原則①経験主義の原理と実践（デューイのactive occupation、きのくに子どもの村学園）			
第4回：教育課程編成の基本原則②系統主義の原理と実践（ブルーナーの「らせん型カリキュラム」、水道方式・キミ子方式）			
第5回：教育課程の歴史①戦前期（学校教育の構想：知育と徳育、教科と科目：習得主義と履修主義）			
第6回：教育課程の歴史②戦中～戦後初期（カリキュラムの類型、スコープとシーケンス、経験主義のカリキュラム構成の具体像）			
第7回：教育課程の歴史③戦後～現在（社会の変化と学習指導要領の変遷、学習指導要領の性質の変化、コンテンツ・スタンダードとパフォーマンス・スタンダード）			
第8回：カリキュラム評価①教育評価でふりかえる教育課程の歴史（絶対評価・相対評価・個人内評価・目標準拠評価、信頼性と妥当性、指導要録、学力とは何か）			
第9回：カリキュラム評価②学力目標をみすえた教育課程の編成と評価（パフォーマンス評価、長期的ルーブリック、スタンダードの種類）			

第10回：教科外の教育課程①特別活動の教育課程（学級活動の教育課程上の位置づけ、学習指導と生活指導）

第11回：教科外の教育課程②総合学習とは何か（教科領域と教科外領域の横断）

第12回：教科外の教育課程③総合学習は必要か——教科・領域を横断する教育課程編成（総合学習の歴史、合科と総合、教科と総合のちがい）

第13回：カリキュラム・マネジメント——長期的視野および学校の実態に根差した教育課程編成（カリキュラム・マネジメントとは何か、〈内容の連関性〉と〈教員の協働性〉、カリキュラム・マネジメントの方法論）

第14回：教育課程の探究（自主課題を設定、探究し、意見交換を行う）

第15回：教育課程とは何か②（教育課程とは何かを考え直す、学力と教育課程との関係）

テキスト

授業中に適宜配布する。

参考書・参考資料等

田中耕治他『新しい時代の教育課程』有斐閣

田中耕治編著『よくわかる教育課程 第二版』ミネルヴァ書房

田中耕治編著『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房

文部科学省『小学校 学習指導要領（平成29年告示）』

文部科学省『中学校 学習指導要領（平成29年告示）』

文部科学省『高等学校 学習指導要領（平成30年告示）』

学生に対する評価

学期末レポート：55%

一枚ポートフォリオ（15の小課題）：45%

授業科目名：特別活動 および総合的な学習の 時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森本和寿 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法・特別活動の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>特別活動・総合学習の教育課程における歴史や役割を理解するとともに、実践事例の検討を通して、特別活動・総合学習の指導案を構想し、見通しをもって指導にあたる実践的力量を培う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>特別活動および総合学習の意義や歴史、指導法について、先行実践を読み深めながら探究していく。先行事例をグループごとに読み深めることを基礎とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：特別活動と総合的な学習の時間で育てたい資質・能力</p> <p>第2回：特別活動の概要：特別活動の目標と内容</p> <p>第3回：教育課程・学習指導要領における特別活動の位置づけ：戦前・戦中・戦後初期</p> <p>第4回：教育課程・学習指導要領における特別活動の位置づけ：戦後から現在に至るまで</p> <p>第5回：学級活動・ホームルーム活動の具体的実践：生活綴方に学ぶ家庭や地域とのかかわり</p> <p>第6回：学級活動・ホームルーム活動の具体的実践：「仲間づくり」に学ぶ意思決定</p> <p>第7回：学級活動・ホームルーム活動の具体的実践：「集団づくり」に学ぶ合意形成</p> <p>第8回：クラブ活動の具体的実践：「学級文化活動」実践に学ぶ評価・改善活動</p> <p>第9回：児童会・生徒会活動の具体的実践：学級会と児童会・生徒会の結びつき</p> <p>第10回：学校行事の具体的実践：各種学校行事実践に学ぶ</p> <p>第11回：教育課程・学習指導要領における「総合的な学習の時間」の位置づけ</p> <p>第12回：総合的な学習の時間の具体的実践：各教科と結びつけて地域の課題に取り組む</p> <p>第13回：総合的な学習の時間の具体的実践：探究活動の意義と評価</p> <p>第14回：特別活動と総合学習：両者の共通性と独自性を活かしたカリキュラム・マネジメント</p> <p>第15回：特別活動と総合学習の年間指導計画・単元計画の作成</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>・吉田武男・京免徹雄編『特別活動』ミネルヴァ書房</p>			

参考書・参考資料等

- ・小学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）
- ・中学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）
- ・高等学校学習指導要領（平成30年告示 文部科学省）
- ・生徒指導提要（文部科学省）

授業内でレジュメを配布し、授業内容や受講生の授業コメントを踏まえながら、適宜参照すべき文献を示す。

学生に対する評価

- ・授業コメント 50点：授業内容の理解について問うコメントを求める
- ・中間試験 30点：基礎的な知識事項について問う
- ・最終課題 20点：特別活動と総合学習に関するレポートを課す

授業科目名： 教育方法論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 樋口太郎
			担当形態：単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①授業をつくる、カリキュラムをつくるための教師としての力量を培うこと。</p> <p>②教育方法学の理論について理解し、教師としての専門性を高めていくための基礎を培うこと。</p> <p>③学習指導案作成の力量をさらに高めること。</p>			
授業の概要			
<p>教育方法に関わる思想と歴史についてふれたあと、教育方法の理論と実践についてできるだけ具体例を踏まえながら扱っていく。また、学習指導案に関する学習もおこなう。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：学習指導案の理論と方法			
第3回：授業とは何か + 序章 今なぜ、教育方法の学なのか			
第4回：第1章 西洋における教育思想と教育方法の歴史			
第5回：第2章 日本における教育改革と教育方法の歴史			
第6回：第3章 現代教育方法学の論点と課題			
第7回：第4章 子どもは何を学ぶか			
第8回：第5章 学習とは何か			
第9回：第6章 学力をどう高めるか			
第10回：第7章 授業をどうデザインするか			
第11回：第8章 教育の道具・素材・環境を考える			
第12回：第9章 何をどう評価するのか			
第13回：第10章 教科外教育活動を構想する			
第14回：第11章 どのような教師をめざすべきか			
第15回：教育方法をめぐる最新の動向（ICT化、グローバル化と教育方法の関係など）			
定期試験			
テキスト			
<p>田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之『新しい時代の教育方法（改訂版）』有斐閣、2019年。</p>			
参考書・参考資料等			

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（文部科学省：最新版）

学生に対する評価

定期試験（論述試験。持ち込み不可）と、提出を求める学習指導案の出来によって評価する。

授業科目名： 教育におけるICT活用	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 樋口太郎 中西修一朗 担当形態：オムニバス
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	情報通信技術を活用した教育に関する理論及び方法		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導において情報通信技術が占める役割や意義、注意すべき点などを具体的に把握して活用できるようになる。またその際に留意すべき情報活用能力について、説明できるようになる。 ・情報通信技術を用いるための環境整備や、これを用いた校務の推進について把握し、説明できるようになる。 			
<p>授業の概要</p> <p>主体的・対話的で深い学びを実現するためのツールとして、情報通信技術(ICT)が注目を集めている。GIGAスクール構想等に後押しされ、PCやタブレット端末の整備を進め効果的に活用する学校も増加している。これらの教具の有用性と課題を把握することは、今後の学校のあり方を考える一助となるだろう。本講義では、情報通信技術の学習指導や校務改善への活用事例を検討することを通じて、今後の教育において情報通信技術が担うべき位置や、その際の環境整備の条件、児童生徒が身につけるべき情報活用能力などについて広く学習してもらおう。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：深い学びとICT活用（担当：樋口太郎）</p> <p>第2回：ICTを活用した授業改善（担当：樋口太郎）</p> <p>第3回：特別なニーズとICT / 求められる情報活用能力と情報モラル（担当：樋口太郎）</p> <p>第4回：校務の円滑化とICT（担当：樋口太郎）</p> <p>第5回：ICT活用をめぐる環境整備（担当：中西修一朗）</p> <p>第6回：ICTを活用した指導法の探究（担当：中西修一朗）</p> <p>第7回：ICTを活用した指導法の実践（担当：中西修一朗）</p> <p>第8回：現代の教育とICT（担当：中西修一朗）</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業中に適宜配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>上越教育大学附属中学校編著『GIGAスクール時代の学校』東京書籍、2021年</p> <p>文部科学省『小学校 学習指導要領（平成29年告示）』</p> <p>文部科学省『中学校 学習指導要領（平成29年告示）』</p>			

文部科学省『高等学校 学習指導要領（平成30年告示）』

学生に対する評価

授業内容をふまえた最終提出物によって評価する。

授業科目名： 生徒・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉川俊二 担当形態： 単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>生徒指導を単に生徒の問題行動に対する対処としてとらえるのではなく、一人の生徒を人間として成長させ、自立させる指導としてとらえることが出来るようになる。いじめ、不登校・登校拒否や暴力問題など、生徒たちの荒れや様々な行動にどのような取り組むのか、具体的に考えることが出来るようになる。また、進路指導については、一人ひとりの児童・生徒が自己の個性を理解すると共に、社会の中で自らの役割の価値や自分との関係を見いだす力を育てる指導が出来るようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>生徒指導とは、問題行動をおこす児童・生徒に対する対処・指導だけでなく、すべての児童・生徒の人間的な発達・成長・自立を促すものであり、彼らの資質や行動力を高めようとするにある。本講義では、はじめに、今日の生徒のくらし・学び・学校生活の実態を把握し、問題点と課題を考える。そのうえで、いじめ・不登校・登校拒否や非行などの生徒の問題行動にどう取り組めばいいのか具体的事例を取り上げながら考える。進路指導においては、生徒が自己理解を深めるとともに、進路先・社会についての理解も必要である。カウンセリングなどの相談活動だけでなく、進路先・社会について情報を集めて活用できる力＝情報リテラシーを育成する。さらに、入学・就職後についても変化し続ける社会に対応するため、生涯学習の現状・今後について考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 授業目標・計画など</p> <p>第2回：今日の生徒の実態・課題の把握</p> <p>第3回：児童期・青年期の心理と生徒理解</p> <p>第4回：生徒の発達と課題①（不登校・登校拒否）</p> <p>第5回：生徒の発達と課題②（発達障害の支援）</p> <p>第6回：集団活動と生徒指導①（いじめ）</p> <p>第7回：集団活動と生徒指導②（クラス・学年・学校づくり）</p> <p>第8回：集団活動と生徒指導③（部活動）</p> <p>第9回：生徒の問題行動と校則、懲戒、体罰</p> <p>第10回：保護者との連携</p> <p>第11回：学校体制（教師・教師集団等）と生徒指導</p> <p>第12回：キャリア教育と進路指導（受験制度・奨学金制度、就職・雇用システム、キャリア・カウン</p>			

セリング)

第13回 職業観・勤労観の形成（職場体験・インターンシップ、労働に関する法律・制度、生涯を通じたキャリア形成）

第14回 生涯学習の現状と今後（産業・経済構造の変化、ワークライフバランス）

第15回 生徒指導・進路指導のまとめ

テキスト

毎回の講義のテーマに関するレジュメや映像資料・実践報告・新聞情報・論考などの資料を用意する。

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（文部科学省：最新版）

生徒指導提要

学生に対する評価

学期末試験、授業への取組み状況、毎時間ごとのレポート（コメント）の提出と内容などによる総合評価とする。

授業科目名： 教育相談の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 坪田 祐季 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ テーマ： 学校で実践されている教育相談やカウンセリングの理論と具体的な実践方法を学ぶ 到達目標： <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校カウンセリングや教育相談について、理論的・体験的に理解を深める ・ 児童生徒が抱える課題について多面的な視点から理解し、対応の仕方を考える力を高める ・ 保護者への対応の仕方、教職員同士や多職種との連携の必要性について理解を深める ・ 教育相談の具体的なアプローチを学び、実践に活かす力を身につける 			
授業の概要 学校という場で出会う子どもたちを、教師としてどのように理解し、どのようにサポートするのか、そして、どのように成長を育んでいくのか、体験を通して学ぶ。			
授業計画 第1回：学校教育における教育相談 第2回：現代の子どもの現状と課題 -心理学的視点から 第3回：学校における援助体制 -スクールカウンセラーと教師の役割 第4回：カウンセリングスキル（傾聴）演習 第5回：発達障害をもつ児童・生徒への援助 第6回：特別支援教育の実際 第7回：学校におけるいじめの理解と対応 第8回：学校におけるいじめの未然予防 第9回：学校における虐待問題の理解と対応 第10回：不登校の理解と支援の実際 第11回：思春期に生じる心理的問題と精神疾患 第12回：保護者と教師のメンタルヘルス 第13回：学級集団への教育相談的援助 第14回：自殺と自殺予防教育 第15回：チーム学校と多職種連携 定期試験			

テキスト

必要に応じて、適宜配布する。

参考書・参考資料等

公認心理師の基礎と実践18巻 教育・学校心理学 石隈利紀編 遠見書房
ワークで学ぶ学校カウンセリング 竹尾和子 井藤元編 ナカニシヤ出版
体験型ワークで学ぶ教育相談 小野田正利 藤川信夫監修 大前玲子編 大阪大学出版会
その他、必要に応じて適宜紹介します。

学生に対する評価

期末試験50%、振り返りレポート40%、平常点10%で総合的に評価する。
授業のはじめに前回の課題や振り返りレポートについてフィードバックを行う。

シラバス:教職実践演習

シラバス:教職実践演習(中・高)	単位数:2単位	担当教員名:高津芳則・藤澤宏樹・樋口太郎・中西修一朗		
科目	教育実践に関する科目			
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)
受講者数	20人(4クラスで実施)			
教員の連携・協力体制 教職に関する科目の担当教員を中心にしながら、教職経験者の支援も受けつつ、進める。教科に関する科目の担当教員には、授業計画の作成にあたって協力を求めるとともに、模擬授業の教材研究において支援してもらう。				
授業のテーマ及び到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・教育を受ける側、そして教育を行う側に立った経験を振り返ることができるようになる。 ・教員としての資質・能力が一定程度形成されたことを、4観点を通して確認することができるようになる。 				
授業の概要 第1回から第4回で、教育を受ける側、そして教育を行う側における自身の経験を振り返り、教職全般について特に4観点を通じた理解・考察を深める。その上で、第5回から第7回では、ICTの活用も踏まえながら授業設計の力量のさらなる向上を図る。第8回から第10回では、模擬授業(ICTを活用するものも含む)を通して、授業を実際におこなう力量のさらなる向上、授業を見る力の育成を目指す。これらは、教師にとって最も重要な仕事である授業に関わるものである。さらに、第11回から第14回では、授業場面以外における教師にとっての仕事、いじめ・不登校、学級運営、進路指導、家庭・地域との連携などのテーマについてロールプレイを交えながら議論し、理解を深める。				
授業計画 第1回目 演習の概要や計画、成績評価基準の説明、演習の目的の解説 第2回目 教職経験者による講演(教師という仕事全般について) 第3回目 教員としての使命感や責任感、ならびに教員としての社会性や対人関係能力に関するグループ討議 第4回目 生徒理解、学級経営、ならびに教科等の指導力に関するグループ討議 第5回目 授業設計①——教職経験者による講演(授業づくりについて) 第6回目 授業設計②——指導案の検討とグループ討議 第7回目 授業設計③——ICTを活用した教材づくり・授業づくりに関するグループ討議 第8回目 模擬授業①——特に授業内容に焦点をあてた検討 第9回目 模擬授業②——特に授業方法に焦点をあてた検討 第10回目 模擬授業③——総合的な観点からの検討 第11回目 ロールプレイ①——いじめ・不登校 第12回目 ロールプレイ②——学級経営 第13回目 ロールプレイ③——進路指導 第14回目 ロールプレイ④——家庭・地域との連携 第15回目 最終レポートの発表と議論				

授業評価アンケートの分析
テキスト なし
参考書・参考資料等 西岡加名恵ほか『教職実践演習ワークブック』ミネルヴァ書房、2013年。 高見茂ほか監修・石井英真ほか著『教育実習・教職実践演習・フィールドワーク』協同出版、2018年。
学生に対する評価 模擬授業・ロールプレイの内容(40%)、最終レポート(40%)、授業における議論への参加度(20%)

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。